

# 第 3 章

## 第3章 東伊豆町の成立（創設期）

（昭和34年～昭和43年）

### 第1節 概要

昭和34年5月3日、稲取町、城東村が合併して、「海と山と温泉に恵まれた、個性豊かな郷土づくり。」をめざした「東伊豆町」がうぶ声をあげた。

町づくりの歩みを一步一步進みはじめたが、まず、最初に取り組まなければならなかった問題があった。それは合併の前年に受けた狩野川台風のつめ跡であった。電灯、水道、温泉施設、道路、農業関係、林業、水産関係、商工業等の災害復旧作業に町の総力をあげて努力した。

昭和36年12月、「伊豆に鉄道を」という町民の60年にわたる悲願がかなえられ、伊豆急行が開通した。まさに、この10年間の最大のできことであった。

これに続いて昭和37年8月、東伊豆道路熱川区間開通、昭和42年4月稲取区間が開通、ここに東伊豆道路が完通した。伊豆急開通、東伊豆道路開通にともない、従来運行していた東海バス路線も近距離輸送が主となり、我が東伊豆にもたらした利益の大きさは、はかり知れないものがある。まさに「伊豆の夜明け」といえるのではなからうか。

中でも一番恩恵を受けたのは観光面である。そして、農業と漁業中心の経済の町から、観光中心の経済の町へ歩みをはじめ、観光地としての地盤形成の時代に

入ったのである。

旅館や商店の増改築も激しくすべての旅館が増改築した。又稲取河津の農協・漁協が合併し伊豆東農業組合、稲取漁業協同組合がそれぞれ誕生した。

町の経済力もあがって来たため、教育の面でも町が幼児教育に力を注ぎ、町内の幼稚園の整備と充実がなされた。

しかし、一躍観光の町として脚光を浴びるとともに、水の需要も増し、水不足が深刻さを増し、町としても水道施設整備の必要性が生じこれに力を注ぐようになった。

この10年間をまとめるとすると……創設期はまさに、電車の開通。道路の開通と高度成長の流れにのり、観光経済への基礎づくりのため生き生きとした町づくりの時代であったといえるのではなからうか。

### 第2節 東伊豆町の成立

昭和34年5月5日の城東村の閉村式が熱川小学校の講堂において行われた。これに前後して5月3日に東伊豆町告示第1号により東伊豆町の設置は決定した。

ここに東伊豆町は旧稲取町の庁舎を使用して発足し、その第一歩を踏み出した。

### 東伊豆町告示第1号

賀茂郡稲取町、城東村を昭和34年5月3日に廃し、東伊豆町を設置することに伴い、地方自治法施行令第1条の規定に基き関係町村長協議の上、東伊豆町長職務執行者を東伊豆町片瀬174番地 鈴木恒三郎と決定した。

昭和34年5月3日

東伊豆町長職務執行者 鈴木恒三郎

### 東伊豆町告示第2号

賀茂郡東伊豆町役場の位置に関する条例を次のように定める

昭和34年5月3日

賀茂郡東伊豆町長職務執行者 鈴木恒三郎

#### 東伊豆町条例第1号

賀茂郡東伊豆町役場の位置に関する条例

第1条 賀茂郡東伊豆町役場の位置を次のように定める

賀茂郡東伊豆町稲取383番地

附 則

この条例は昭和34年5月3日から施行する。

## 第3節 伊豆急行開通～ 伊豆の夜明け

### 1. 伊豆急行開通

“伊豆に鉄道を”という地元住民の願

いは古く、明治37年に鉄道期成賀茂郡同盟が結成されている。それから56年後の昭和31年2月1日、東京急行は運輸大臣に伊東～下田間地方鉄道敷設免許を申請した。その後、昭和32年3月に駿豆鉄道からも敷設免許申請が出された為、運輸

省は公聴会を開催し、その年の7月に関係者による論戦が展開されるなどの経過の後、昭和34年2月に伊豆急行の前身である「伊東下田電気鉄道」に免許状が交付された。同年12月工事施工の認可がおり翌昭和35年1月22日に22ヶ月後完成を目標に着工した。

その間、東伊豆町内に於ける鉄道用地の取得には多少の難行もあって関係者の多大な努力がはらわれた。

また当町内は3つの工区に分けられ工事が進められた。大川附近は地崎組、熱川・片瀬・白田附近は熊谷組、稲取附近は西松建設が各々工事を担当した。

工事期間中に忘れられない大きな事故が稲取で起きた。昭和36年4月16日、午後2時30分頃、稲取向井の「東町トンネル」で落盤事故が発生した。伊東口から約172mの地点が17mに渡って落盤し、14人の作業員が生き埋めになった。この内1人は自力ではい出したが、残る13人の救助作業は4日間昼夜を問わず続けられたが、生存者2人、死者11人という惨事となった。

この他、熱川トンネル・黒根トンネル工事にとまなう上水道の水源切断なども起きた。

こうして工事も進み同年10月20日には全線のレールと架線がつながり、11月16日に試運転のハイアンブルーの電車が下田まで走った。

12月9日、いよいよ伊豆半島住民60年の悲願であった伊東～下田間の鉄道開通祝賀電車が運転された。午前11時伊東駅を発車した祝賀電車は、各駅で開通の喜びにわく沿線住民に迎えられた。

東伊豆町内の4駅でも、幼稚園児から中学生までもがホームに出て迎え、鼓笛隊、ブラスバンドが演奏され、町、観光協会、商工会、各区等々の関係者など町民総出の歓迎ぶりであった。一方、商工会傘下の商店会は、開通記念売出しをやり、特賞に乗用車を出すというデラックス版であった。また、その夜は各区ごとに提灯行列がにぎやかに行われた。

こうして走り出した伊豆急電車は平日25往復、土曜・休日は26往復のダイヤであった。このうち東京～下田間直通の準急列車停車駅は伊東、熱川、河津、下田であって、稲取には停車しなかった。

それから3年後の昭和39年10月1日に伊豆北川駅が新に開設された。

### 2. 東伊豆の交通

昔、伊豆の東海岸には、道路と呼べる様な道は無いも同然だった。人の通れる道と云うか、獣道と云うか、踏固めただけの様な道らしきものが、山坂を越えていた。そして其の道は、乗り物を利用する事が出来ず、ただただ足に頼る以外はなかった。

明治になって、東京と、伊豆を結んで汽船が運行され、昭和に入って東海岸に

粗末な道路が出来て、バスが走り、昭和10年頃、伊東線が開通、昭和36年、伊豆急行が下田まで開通して、下田市以北は電車の利用だけで東京まで行ける様になり、又、昭和42年、東伊豆有料道路が、下田まで開通し、交通の恩恵に浴する様になった。

### 3. 東伊豆道路

伊豆急行鉄道工事着工以前に東伊豆道路の建設も次の通り始まっていた。



下田区間（下田－河津間）は、県営縄地有料道路として、昭和29年12月1日に開通し、伊東区間（伊東－八幡野間）は、昭和31年9月に開通、以上の道路は、昭和31年4月発足の日本道路公団に東伊豆道路の一部として引渡された。そして熱川区間（八幡野－片瀬）が37年8月に、稲取区間（片瀬－河津）は42年4月に完成、此処に東伊豆道路の全線が開通した。

熱川区間は、総延長9,511m、35年3月着工、37年8月竣工、11億3千8百万円を要し、稲取区間は、総延長13,022m、総工費22億8千万円を要した。昭和38年

12月着工、東京オリンピック開催までに完成する予定であったが、途中一部用地買収が難航した為3年も工期が遅れた。



#### 通行料金表（開通当初）

| 通行料金 | 普通車  | 軽自動車 | 定期バス | 不定期バス |
|------|------|------|------|-------|
| 熱川区間 | 150円 | 100円 | 200円 | 300円  |
| 稲取区間 | 200円 | 100円 | 不明   | 不明    |

以上の通行料金であったが、伊東下田間は全通で、普通乗用車、550円を要した。伊豆急行は伊東、下田間片道300円で、かなり割高の通行料金であった。北川、熱川、稲取に料金徴集所があったため住民生活不便のため、北川熱川両料金徴集所を間もなく廃止していただいた。そして昭和57年全線無料となった。

### 4. 東海自動車

昭和7年下田、奈良本間の道路が開通した事に依り、東海自動車が、乗合バスの運行を開始した。昭和8年、道路は伊東まで全通したので、バスで熱海まで行ける様に成り、それから鉄道を利用して東京までと、大変便利に成った。以来東海自動車運行のバス路線は、東伊豆住民

の貴重な足であった。昭和36年、伊豆急行、東伊豆有料道路の開通その後、自家用車の普及により、益々バス利用は少なくな成り、現八百半の所に有った駅も、有料道路際の現地に移転した。

一般乗合バス事業運航系統数および総延長料 (略表)

| 年 期  | 系統数 | 料 数             | 年 期  | 系統数 | 料 数 |
|------|-----|-----------------|------|-----|-----|
| 大正 5 | 2   | (免許) 32.7料      | 昭和32 | 79  | 233 |
| 大正 6 | 1   | 36.8"           | " 33 | 81  | 249 |
|      | 不 明 | 不 明             | " 34 | 83  | 255 |
| 昭和 3 | 21  | 130哩            | " 35 | 85  | 271 |
| " 4  | 23  | 148.4"          | " 36 | 87  | 281 |
| " 5  | 25  | 168.9"          | " 37 | 89  | 296 |
| " 6  | 27  | 170.4"          | " 38 | 91  | 353 |
| " 7  | 29  | 175.8"          | " 39 | 93  | 394 |
| " 8  | 31  | 836.4料          | " 40 | 95  | 399 |
| " 9  | 33  | 1,220.2"        | " 41 | 97  | 413 |
| " 10 | 35  | 1,414.5"        | " 42 | 99  | 443 |
| " 11 | 37  | 1,458.6"        | " 43 | 101 | 454 |
| " 12 | 39  | 1,606.7"        | " 44 | 103 | 483 |
| " 13 | 41  | 1,366.3"        | " 45 | 105 | 482 |
| " 14 | 43  | 1,366.3"        | " 46 | 107 | 443 |
| " 15 | 45  | 1,366.3"        | " 47 | 108 | 437 |
| " 16 | 47  | 1,366.3"        | " 48 | 109 | 436 |
| " 17 | 49  | 1,368.2"        | " 49 | 110 | 438 |
| " 18 | 51  | 1,368.2"        | " 50 | 111 | 403 |
| " 19 | 53  | 1,368.2"        | " 51 | 112 | 385 |
| " 20 | 55  | 不明 (免許料) 539.5" | " 52 | 113 | 385 |
| " 21 | 57  | ( " ) 539.5"    | " 53 | 114 | 392 |
| " 22 | 59  | ( " ) 539.5"    | " 54 | 115 | 410 |
| " 23 | 61  | ( " ) 527.1"    | " 55 | 116 | 405 |
| " 24 | 63  | ( " ) 527.1"    | " 56 | 117 | 409 |
| " 25 | 65  | ( " ) 536.7"    | " 57 | 118 | 400 |
| " 26 | 67  | 113 2,530.4"    | " 58 | 119 | 399 |
| " 27 | 69  | 120 2,745.3"    | " 59 | 120 | 397 |
| " 28 | 71  | 137 2,960.9"    | " 60 | 121 | 358 |
| " 29 | 73  | 169 3,674.3"    | " 61 | 122 | 361 |
| " 30 | 75  | 181 4,234.8"    | " 62 | 123 | 354 |
| " 31 | 77  | 204 4,922.4"    |      |     |     |

第4節 農業と、漁業の町から

観光の町への歩み

1. 東伊豆町の温泉場の生い立ち

東伊豆町合併以前の旧城東村奈良本の現在の熱川温泉が最も古く続いて片瀬温泉で第2次世界大戦以前はこの2つの温泉場であった。

熱川温泉の生い立ち

熱川温泉の歴史については「熱川温泉と大東館」(著稲葉米吉氏)に詳しく述べられている。

今の熱川の元湯は昔から自然に湧き出していた。これを江戸時代から奈良本の共同浴場として利用していたが、明治の初期3本の引湯を認め3軒の旅館が開業した。これが熱川温泉の誕生と考えられる。稲葉米吉氏が所有する「稀観本」という当時の旅事情や旅館名を記した明治25年10月10日発行の小誌にも旅館3軒で、旅館名は静浄軒、川菊屋、湯本屋と記されている。この3旅館は火災や洪水によって廃業し、現在熱川で歴史の古いのは、ホテルつちやが明治37年頃の開業で、今の当館の社長秋永敏暁氏は5代目である。つづいて古いのはカタラ福島屋で現在の社長の木村充氏の祖父木村弥吉氏が明治45年の開業で弥吉氏は又「絹さやえんどう」を世に出した功労者でもあった。

いずれにしても大正末期までは旅館数3軒で元湯の周辺にあった。

昭和年代になって、県道伊東下田線が昭和8年に開通し、東海バスの運行が開始された。従来熱川の交通は海路で穴切湾より沖に停泊した汽船に船の連絡によって乗降したのであった。

昭和6年ホテルつちやの三代目秋永真正氏によって、現熱川郵便局の横の土地に温泉掘りが成功した熱川温泉第1号の自噴温泉であった。

又昭和13年に国鉄伊東線が開通しこうした交通事情と温泉の噴湯に成功したことにより数多くの旅館が開業した昭和20年終戦当時の旅館数9軒収容人員約380名であったといわれている。

片瀬温泉の生い立ち

現、東豆館加藤博正社長の祖父(加藤新蔵氏)が片瀬海岸の海の中に温泉が、自然湧出(現在もある)していることから、掘削すれば確実に湧出すると考え、私財を投入して「かずさ堀りという方式」で掘り始めた。数ヶ月を要して自噴に成功した。時は昭和4年で、東伊豆町及び賀茂広域圏では最も古い温泉である。下田保健所の温泉登録第1号として記入されている。その翌年に今の東豆館が開業し片瀬温泉が生まれ、昭和20年頃まで6軒の旅館が営業していた。

以上が東伊豆町の温泉観光の生い立ちであるが当初は旅館の規模は今の民宿程

度で、農業や漁業等兼業であった。

昭和10年代に入って、伊東より現在の熱川館、大東館が熱川で旅館を開業した頃より専門的旅館営業に移り変ってきたようである。大東館の例で示せば当館の開業時は、客室数は宴会場間仕切り4部屋を含んで16室（バストイレなし）で従業員は5人だけというまだ生業的色彩の濃い温泉旅館であった。昭和20年以來は温泉旅行はまだ限られた一部の人達しか利用しなかった時代でもあった。

## 2. 観光発展の始まり～第2次世界大戦を終わって

戦争が激しかった昭和17年頃から熱川や片瀬の温泉場を訪れる人もめっきり少なくなり、又戦後の昭和22年頃まで食糧難で、温泉宿も休業の状態ですべての主人等も農業や漁業のまねごとにいそしんでいた。戦後の一時期熱川と北川に温泉熱を利用して塩工場が設けられた。

やがて、戦後の混乱期も去り、兵役に服した人々も復員し、日本の経済復興も政府の適切な施策（傾斜生産方式といって、まず石炭、電力、鉄鋼等の基幹産業を育て他の産業に波及させてゆく）と、昭和25年、南北朝鮮戦争が始まりこの特需景気も大きなささえになって日本の経済も息吹きを始め、人々もだんだん、熱川や片瀬の温泉場を訪れるようになった。それなら旅館の増築をと、昭和26年、大

東館、熱川館が、昭和28年には福島屋がけや木造りの3階建22室の三楽荘を増築した。現在この建物は取こわされていないが当時の木造建築としては優れたものであった。

又戦時中熱川に疎開していた、現在のホテルオグラ、一柳閣も、旅館を営み始めたほか伊東市から大和館が進出し熱川温泉も長い休眠より覚めて、活気を取り戻してきた。片瀬温泉も旅館の改修も始まり、昭和20年代に新たに松涛園（32年廃業）清見荘（45年廃業）等が開業し、昭和24年までは熱川と片瀬は一つの旅館組合であった。

この時代に旅館経営の歴史上特記すべきことは、戦前はお金持ちの家族旅行や新婚旅行の温泉場であったが、団体旅行の時代が来ると、稲葉米吉氏経営の大東館は、当地域としては初めて80帖の宴会場を設け大衆レジャー時代への対応を示し、従来の温泉場の観念からは大きな英断であったと思う。又当館は早くから野天風呂をつくり以後「野天風呂の熱川」として有名になったことも、時代を先取りした稲葉米吉氏の経営者としての片隣が見られる。

## 3. 観光地としての形成の時代

名実共に町が観光として形成されたのは、昭和30年代の初めから、昭和40年代の初めにかけてであった。

観光需要の上では、日本経済の高度成長は大衆レジャーをまねき、この波に乗り、又交通上は、伊豆の夜明けだ昭和の黒船到来と、賀茂広域圏の人々が双手上げて嬉んだ。昭和36年12月の伊豆急行の開通、翌昭和37年8月東伊豆有料道路の開通は希望に満ちた活力をあたえた。

この頃は日本経済の工業化への進展の時に、全国の多くの地方はその振興策として工場誘致に奔走していた。当町は地形上工場誘致がむずかしく、一方かつては近海漁業が栄え、農業もみかん王国を誇っていたが、そのかげりが見え始めていたこともあってか、町の指導者は、これからは観光の発展策をはかるべきだと考えていた。昭和37年に2代目町長に就任した鈴木慎氏が選挙公約として、観光の振興策を初めて掲げたことから理解できるかと思う。そして日本の高度成長を象徴する一つとしての国鉄新幹線が昭和39年に開通し又その年に東京オリンピックが開催され、旅館の建築ブームに一層拍車をかけた。

この観光地形成の時代は、町の歴史のなかで最も活力が溢れまさに激動の10年間であったと考えられる。

○主要なことを列記すれば

昭和31年 稲取温泉が生まれる  
昭和32年 北川温泉が生まれる  
昭和33年 東伊豆町建設協会結成

バナナワニ園開園

昭和35年 東伊豆町観光協会発足  
東伊豆町商工会設立  
昭和36年 伊豆急行電車の開通  
昭和37年 東伊豆有料道路の開通  
(熱川区間)  
稲取旅館協同組合設立  
稲取製材協同組合設立  
熱川製材協同組合設立  
熱川、稲取 両芸妓置屋組合の検番設立  
下田信用金庫東伊豆支店開設  
昭和38年 熱川観光旅館協同組合設立  
東北、北海道より季節労働者募集(主として旅館のメイド)  
セルフ販売方式では初めて当町に中勇ストア開店  
昭和39年 霊友会弥勒山道場完成  
稲取ゴルフ場オープン  
昭和40年 三井不動産熱川別荘開設  
昭和41年 東伊豆有線テレビ(株)の前身である共同アンテナが電器小売組合によって設立  
いなとりどんつく観光祭り始まる  
昭和42年 熱川どうかん祭り始まる  
東伊豆有料道路開通  
(稲取区間)  
昭和43年 (株)ヤオハン稲取店オープン  
東伊豆町サービス店会結成  
旅館や商店の増改築も激しく、特に旅

館の大規模本格的な鉄筋建築も、昭和37年銀水荘から始まり、既存のすべての旅館が増改築した。客室もバストイレ付となり、パブリック部門も充実され大宴会場が設けられ冷暖房が完備された。

又経営の近代化や団体客受入整備の合理化も進み、7帖半の客室（8帖と同じに使える）が考えられたのもこの頃と思う。そのほか経営規模の拡大に伴い個人経営から法人組織に改組し、又記帳事業所（青色申告）が飛躍的な増加を示した。

#### 4. 各温泉場の発展

##### (1) 熱川温泉

新たな旅館の開業 戦前は9軒の温泉宿であったが、昭和20年代に6軒、昭和30年代に5軒、昭和40年代前半に6軒の開業があった。この間廃業等もあって、昭和45年現在旅館25軒で以後新規開業はなかった。

### ①熱川温泉旅館創業年次

| 年代            | 旅館名  | 創業者   | 創業年次   | 摘要   |
|---------------|--|---|--|--|
| 明治時代<br>大正    | (有)ホテルつちや<br>(株)ホテル福島屋<br>3軒 (有)玉翠館  | 秋永真正<br>木村弥吉<br>太田寅吉                            | 明治37年<br>明治41年<br>大正3年                             | 昭和26年（暖流荘）現在の黒潮と玉翠館に分離する                           |
| 昭和1—<br>19年代  | (有)みどり館<br>(有)熱川館<br>(有)偕楽園<br>(有)大東館<br>(株)三興閣<br>6軒 海南荘                      | 土屋幸平<br>稲葉兵吉<br>斉藤勇二郎<br>稲葉米吉<br>浅井よし           | 昭和10年<br>昭和11年<br>昭和11年<br>昭和14年<br>昭和16年<br>昭和17年 | 旅館天城で開業し山形県の多勢亀五郎氏が経営を引きつぎ昭和39年火災で廃業現在の大和館が買収      |
| 昭和20—<br>29年代 | (株)熱川大和館<br>(有)一柳閣<br>(株)ホテルオグラ<br>(有)くろしお<br>旅館中西<br>6軒 (株)熱川温泉ホテル            | 山本一夫<br>菊地赴夫<br>小倉登茂吉<br>太田和夫<br>露木一男<br>太田正三   | 昭和25年<br>昭和25年<br>昭和25年<br>昭和26年<br>昭和28年<br>昭和29年 | 旅館伊豆海荘で開業し一柳閣に改称した<br><br>昭和38年に黒潮に改称              |
| 昭和30—<br>39年代 | 甲子苑<br>(株)熱川ニュープリンスホテル<br>(有)熱川第一ホテル<br>(有)熱川グラントホテル<br>(有)山路<br>6軒 (有)ホテルしなよし | 木村甲子男<br>嶋田長光<br>萩原静男<br>太田富美男<br>嶋田源吾<br>池田清太郎 | 昭和32年<br>昭和34年<br>昭和35年<br>昭和37年<br>昭和39年<br>昭和39年 | 伊豆旧電車の路線として売却され名産店に転業<br><br>旅館天城で開業し現在地での開業は昭和38年 |
| 昭和40—<br>45年代 | (株)南望ホテル<br>(有)たかみホテル<br>熱川ハイツ<br>(有)グリーンホテル<br>(有)国民宿舍熱川荘<br>6軒 (株)熱川ビューホテル   | 乗松はる<br>雇用促進事業団<br>日馬 実<br>岩崎一男<br>川口俊雄         | 昭和40年<br>昭和41年<br>昭和42年<br>昭和43年<br>昭和44年<br>昭和45年 | 昭和50廃業<br><br>労働省所管                                |

## ② 旅館の増改築

旅館の増改築も激しいものであった。木造建築から、鉄筋建築に移り変ってきたのは、熱川館が昭和31年に一部鉄筋づくりで増築したのが始まりで、昭和34年に至って、大東館が約1億円を投じ鉄筋5階建延3300平方米、大宴会場300帖当時としては賀茂広域圏最大の規模であった。翌年の昭和35年に福島屋が鉄筋づくりに一部増改築した。以後既存旅館の増改築と新たな旅館の建築ブームが昭和40年代の前半まで続いた。その建築は一部を除いて鉄筋づくりであった。このため昭和30年代の下田財務事務所管内の料飲税額は大東館が一番、2番目が福島屋で、その他の旅館も常に上位であって、賀茂広域圏最大な温泉場となった。

## ③ 発展の要因

勿論その大きなウェイトは伊豆急電車と東伊豆有料道路の開通によるものであるが、大衆レジャーの時流に旅館経営者が果敢に挑戦したことに依るものと思う。その他、

(ア) ㈱荏原製作所社長の小会社(有)熱川農園が熱川に広大な土地を持っていた。その土地を旅館業者に開放。(熱川温泉ホテル、熱川第一ホテル、たかみホテル、熱川ビューホテル、大東館ロイヤルホテル等の敷地に)

(イ) 大東館稲葉米吉氏と福島屋木村武志氏は旅館経営のライバルとして競い合

い両館は当時3年ごとに旅館の増改築をした。又両者は、旅館の融資の道をつけるべく、木村氏は熱川観光開発協同組合、稲葉氏は熱川観光旅館協同組合を設立しその理事長になって他館の援助をしている。特に稲葉氏は、10軒余の借入金の保証人になるなど、積極的に他館の世話をしたほか、熱川の多くの道路開設に努力し、私費を投じたものもあった。又木村氏が、昭和28年から、日本交通公社協定旅館連盟と日本旅行協定旅館連盟の南伊豆支部長として、誘客対策に貢献している。稲葉氏は、南伊豆旅館組合長静岡県旅館組合理事長に就任し業界の発展に盡している。両者の経営者としてのライバルは作家花登匡が書いた「銭の花」のモデルとなっている。

### (ウ) 熱川バナナワニ園の開園

遊覧施設のなかった熱川に、昭和33年、福島屋木村武志の弟木村亘氏が熱川バナナワニ園を開園した。個性の強い木村亘氏であったから、成功した事業と思う。

(自伝ころんだら種を拾えがある)

### (エ) 積極的な観光宣伝

昭和25年、㈱福助足袋の全社員の慰安旅行誘致の成功は、熱川片瀬の全旅館を満員にしたことが、刺激となつてか、以後、四季ごとにエージェント中心にキャラバンを全旅館で実施する伝統になっていることも、当時他の温泉場より発展した要因の一つと考える。

## 片瀬温泉旅館創業年次

| 旅館名         | 創業者   | 創業年次  | 摘要                         |
|-------------|-------|-------|----------------------------|
| 東豆館         | 加藤 新蔵 | 昭和4年  |                            |
| ㈱海浜館        | 森田吉太郎 | 昭和11年 |                            |
| えびや         | 森田忠三郎 | 昭和12年 | 昭和31年に現地に移転昭和53年の地震により全壊再建 |
| 小磯館         | 稲葉 太治 | 昭和14年 | なぎさ荘に売却                    |
| (有)片瀬館      | 加藤 太郎 | 昭和14年 |                            |
| 長楽園         | 川合 らく | 昭和14年 | 昭和24年廃業                    |
| 松涛園         | 森田 直徳 | 昭和22年 | 昭和32年廃業                    |
| なぎさ荘        | 稲田 肇  | 昭和25年 | 小磯館を買収                     |
| 清美荘         | 鈴木 守行 | 昭和25年 | 昭和45年廃業                    |
| (有)南海ホテル    | 井原 吾一 | 昭和28年 | 昭和48年東映に売却                 |
| かにや         | 中村登喜子 | 昭和33年 | 昭和43年に廃業                   |
| (有)いづや      | 木村清太郎 | 昭和34年 |                            |
| 山海荘         | 吉田 良男 | 昭和35年 |                            |
| 福松荘         | 松本伊勢野 | 昭和38年 |                            |
| ㈱松泉閣        | 梅原 ゆき | 昭和38年 |                            |
| 伊豆法華荘(国民宿舎) | 末永 芳夫 | 昭和41年 |                            |
| ㈱東映ホテル      |       | 昭和48年 |                            |
| 武蔵野         | 大塚 一  | 昭和55年 |                            |

### (2) 片瀬温泉

戦後熱川と同様に、旅館の開業は昭和20年代に4軒、昭和30年代に5軒が新たに参入している。

鉄筋建築に移ってきたのは昭和38年に片瀬館、以後海浜館、南海ホテル、東豆館が増改築した。いずれも小規模で熱川のように、大規模の増改築ではなかった。

戦後も6軒の温泉宿で、熱川の9軒の

旅館との格差は少なく、昭和24年まで熱川と片瀬は一つの旅館組合で、初代理事長は今のえびや(当時は川端館)の創業者森田忠次郎氏であった。地形上の問題があったと思うが、この時期に旅館業者のまとめりと、宣伝活動等積極的な対応に欠けたのが、熱川温泉との格差が極端に広がったのではなかろうか。

(3) 稲取温泉の誕生（旅館経営の近代化により発展）

昭和30年代に㈱東海自動車のバスガイドは、「海の幸山の幸に恵まれた稲取が伊豆温泉のニューフェイスとして誕生しました。」と美しい声で説明していた。

稲取温泉の誕生は、戦後も栄えた近海漁業にかげりが見え始め、船主等の多くが横浜に出て、港内運送業通称機帆船業に進出した時期に、又一方熱海、伊東、熱川、河津、下田等の温泉場の活況に刺激を受け稲取も温泉湧出の可能性がないかと考えた。以前には太田伊之助氏が発掘した。

現㈱稲取観光ホテル創業者金指万次郎（当時は菓子屋）、現いなとり荘創業者村木宇左衛門、現福美館創業者上島長蔵、井原友一、川口元吉、鈴木勲、鈴木新太郎、氏らが発起人となり、町民全体によびかけ1口50円の出資金を募金して小丸山の土地にノミを降し、あしかけ3年の歳月を経て昭和29年3月待望の温泉が湧出し、稲取の将来に明い見通しが開けた。

第2号の掘削も始まり現㈱稲取観光ホテルの裏地に掘った温泉は温度73度湯量1分間に235リットルで温泉旅館を営むに十分であった。時は昭和30年3月、稲取温泉の胎動はここに始った。

その翌年昭和31年稲取海岸に㈱いなとり荘が木造2階建部屋数10室で開業し、

次の年昭和32年㈱銀水荘がとうさんの海岸に町有地約4,000平方メートルを借り、木造3階建13室で開業、同年現伏見ホテルのところで第1号源泉を利用して㈱帝産オートがヘルスセンターを開業した。昭和33年に(有)白雲閣、昭和34年に㈱稲取観光ホテル、(有)三幸園（昭和45年廃業）、ホテル福美館が開業した。従来から町のなかで宿屋を営業していた古屋旅館、朝陽館、やまだ荘、南国山下荘、萬屋旅館を含めて10軒で稲取温泉が形成され、昭和37年4月、稲取旅館協同組合が設立された（初代組合長金指万次郎）又当時の温泉観光地に欠くことができなかった芸妓置屋の検番組織も昭和36年に設けられた。

以後その発展はめざましかった。

稲取温泉の本格的な鉄筋造りは昭和37年㈱銀水荘が7階建63室、投資金額約1億5千万円、当時としては熱川の大東館、福島屋を越える最大な規模で、自己資金もわずかなもので無謀な計画だと、業界からは危ぶむ声を聞かれた。この頃は金融機関も旅館は融資第2種業種とされ貸付金はきわめて消極的であった。多くの旅館は中部相互、静岡相互銀行に依存していて、本町の金融機関の中で最大なシェアを持つ静岡銀行との取引は少なかつた。政府金融機関でも商工中央金庫なども、経験の浅い当地域旅館融資は、まだ渋いものであった。中小企業金融公

庫が外人が宿泊する施設、政府登録旅館に2千万円の限度で融資制度が発足したばかりで、銀水荘は当町の旅館でこの融資をうけた第1号である。

しかしまだ電車も開通しなく取合道路も狭く新建材の木造建築屋根はトタンぶきで当時の銀水荘の稼働率は72%余（旅館の平均稼働率47%）で、熱海等の有名旅館より宿泊単価は低いものの高稼働率であったことは驚きであった。どんな悪条件でも克服してゆく加藤社長の経営姿勢をかいまみることができると思う。この銀水荘の建築を契機に稲取、熱川、片瀬、北川各温泉場の増改築ブームが昭和40年代の始めまで続いた。又当時の旅館

の経営は「宿六経営」といわれていたが、経営組織、労務管理、会計業務も近代化を成し遂げた。この改革のなかで、加藤社長に対する批判の声も聞かれた、これに耐えた社長は「経営者は孤独と」いわれる諺をしみじみと味わったことであろう。稲取温泉を「料理の稲取」と名声を高め、旅館経営の「近代化の勝利」と言えるのは、この銀水荘に代表されるのではなかろうか。そして昭和41年に稲取観光協会（会長佐藤仁志）のどんつく祭りが始められた。

以後次の通り、新しい旅館のオープンがあった。

|       |                                  |                            |
|-------|----------------------------------|----------------------------|
| 昭和38年 | ㈱稲取赤尾ホテル<br>ホテル靴屋                | (赤尾十五郎)<br>(黒田朝之丞)         |
| 昭和39年 | (有)ホテル東伊豆<br>(有)ホテルたなか           | (小林 康)<br>(川口 元吉)          |
| 昭和40年 | ㈱稲取東海ホテル<br>うえじま旅館<br>(有)やまだ荘増改築 | (滝 )<br>(上島 新一)<br>(山田 武平) |
| 昭和41年 | 喜久多旅館<br>ホテルみどり                  | (定居 喜市)                    |
| 昭和42年 | ホテルコーヨー<br>㈱ホテル伏見                | (内山 功)<br>(森野 五郎)          |
| 昭和43年 | 前田苑<br>清海荘<br>わかしお荘              | (前田 誠治)<br>(鈴木 智之)         |

こうした新たな旅館の参入と、既存旅館の増改築により、誕生から10年、昭和

43年には旅館数21軒を数え、先進の河津温泉片瀬温泉を超越し熱川温泉に次いで町内第2の観光客の多い温泉場としてその地位を確保し伊豆温泉のニューフェイスとしての名声は高まってきた。

#### (4) 北川温泉の誕生とその発展

北川温泉の歴史については、著者福山靖氏が「北川温泉開発小史」でまとめられている。

定置網の漁業で栄えていた北川地区に熱海のつるやホテルの創業者畠山鶴吉氏（元衆議院議員）が、昭和12年頃から温泉が湧出していたのに注目し、当時の伊豆各温泉が観楽型であったことから、北川温泉は、俗化を避け優れた静養型のビジョンをめざして、昭和32年に㈱三井船舶が経営していた塩工場の跡地に㈱つるやホテル北川支店として開業したのが始まりで、自然環境を大切にすため、古松や自然石を旅館建築のなかに加えた。離れ方式の別館は1階2階を組合せて一室とした部屋づくりは、今日まで残っていて、旅館経営の参考になるものではないかと思う。

続いて畠山鶴吉氏の援助もあって次の旅館が開業している。

- 昭和33年 ㈱ホテル望水 （近藤実）
- 昭和35年 ㈱北川温泉ホテル(伴禁宗助)
- ㈱ホテルゆうき荘 （西実）
- (昭和49年廃業)
- 昭和40年 ホテル船松 （太田幸枝）

    ㈱ホテル本間 （本間圭一）

昭和41年 かめやホテル （加藤五郎）

又北川部落内でも伊豆急開通後の伊豆南部地域の民宿ブームのこともあってか民宿に近い次の旅館が開業している。

- 昭和40年 山十旅館 （島沢定雄）
- 昭和41年 汐見荘 （成生 昂）
- 大屋丸 （野崎惇次）
- 昭和43年 上の山旅館 （島沢貞一）

又一方熱川や稲取の増改築の波は北川にも押し寄せ、昭和36年つるや別館の増築に続いて、ゆうき荘、ホテル望水、北川温泉ホテルの3軒が、鉄筋づくりで昭和41年までに増改築している。

こうした新しい旅館の開業と、既存旅館の増改築は、北川温泉の開発者畠山鶴吉氏の考えていた、静養型の観光地とはかけ離れたものとなってきた。観光需要の時流は、団体宴会型が主流で、各旅館もその経営効率上これに対応せざるを得なくなり、大宴会場を設け又芸妓置屋を東京から招いた（三河屋）。土日曜日になると東京から50人余の芸者をよびよせた。今のコンパニオン方式と思う。他㈱北川観光センターを設け飲食店喫茶店みやげ品店を誘致するなど、観楽型へ激しく脱皮を始め、昭和36年宿泊人員22,602人から昭和43年137,186人と高い伸びを示し、片瀬温泉を超越して町内第3番目の観光客の多い温泉場となった。

#### (5) 大川温泉の誕生

昭和15年頃から温泉が、湧出していたが、町内各地域が温泉観光地として活況を呈していることから、大川も温泉観光地として成立しないものかと、常々考えていたが、

昭和36年 ㈱大川グランドホテル  
    (大森武雄)

昭和38年 きむら旅館 （木村 操）

昭和40年 泰山荘 （稲葉泰吉郎）  
    晴美荘 （稲葉正作）  
    大川荘 （稲葉 武）

以上の5軒の旅館が開業し、又昭和39年には霊友会弥勒山道場が完成し昭和41年には日本大学ゼミナハウスが開設され大川も温泉として芽ばえてきた。

#### (6) 白田温泉の誕生

昭和18年4月、現石田薬局の兄、石田俊氏が温泉を発掘し湧出したのが始まりで、この成功をみて同年白田地区が掘り一時共同浴場として利用した。

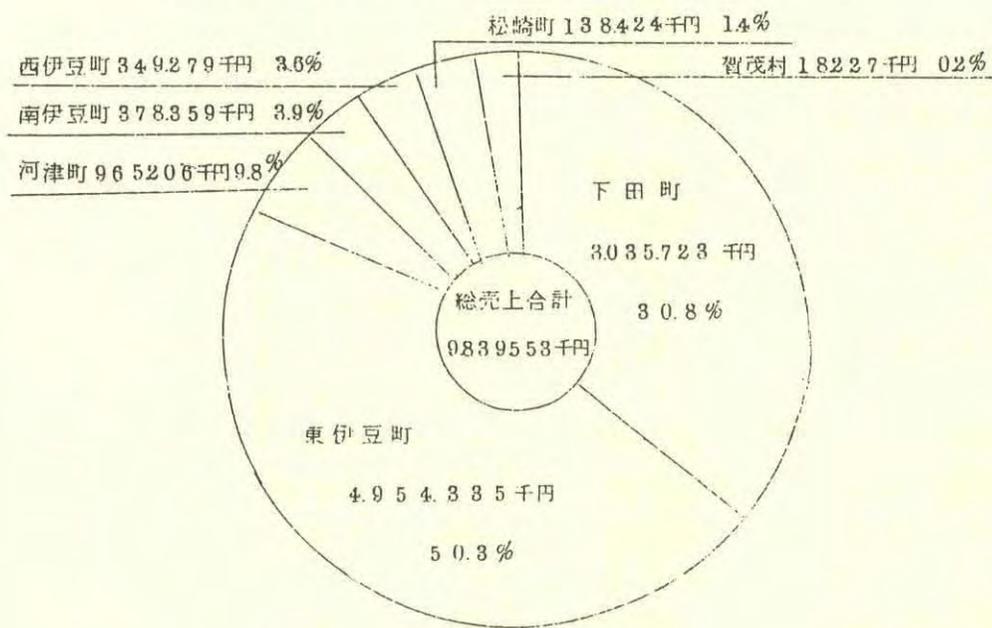
温泉場としての誕生は、

昭和37年 ㈱白田観光ホテル(山下富子)  
昭和39年 ホテル千代野(山本千代野)  
昭和40年 ㈱臨海荘(53年地震で全壊)  
昭和41年 ㈱白田川観光ホテル(加山堅治)

昭和43年 丸井荘  
    等が開業し温泉場としての息吹が始まった。

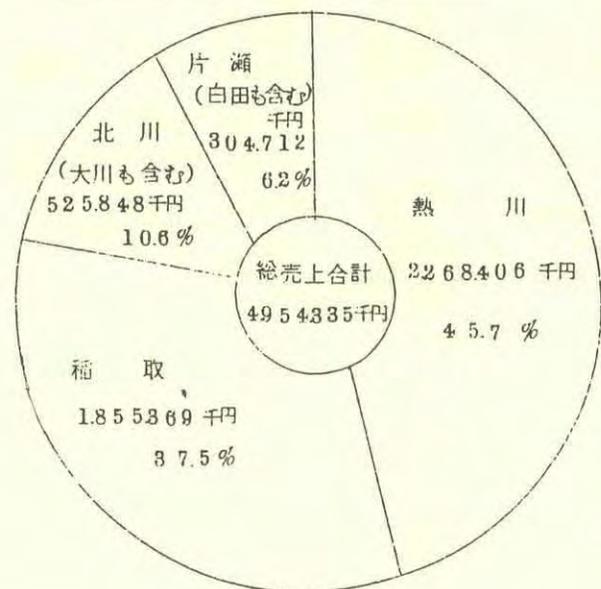
| 昭和36年度            |         | 昭和43年度          |         | 伸率    |       |
|-------------------|---------|-----------------|---------|-------|-------|
| 旅館数               | 宿泊人員    | 旅館数             | 宿泊人員    | 旅館数   | 宿泊人員  |
| 北川                |         | 12<br>(大川温泉を含む) | 137,386 |       |       |
| 煎川 21<br>(北川3を含む) | 347,906 | 28              | 592,484 | 133.3 | 170.3 |
| 片瀬 12<br>白田       | 57,007  | 20              | 102,465 | 166.6 | 179.7 |
| 稲取 9              | 161,249 | 19              | 475,309 | 211.1 | 294.7 |

昭和43年度賀茂郡地区別旅館売上高構成!



(資料4)

昭和43年度東伊豆町地区別旅館売上高構成比



5. 観光の発展は、町の他の産業に、大きな波及効果をもたらした。

(1) 商業

町の商業の歴史は、農漁業経済を基盤として生まれてきた。かつては農業はみかん王国を誇り、漁業は近海漁業の根拠地として稲取港は栄え、外来漁船の入港も多く、このため料理屋、湯場業、映画館が活気を呈し、また造船業、樽製造業、製材業も繁栄していた。農漁業産業にささえられていた、商業活動の取引の多くは大福帳にみられる、盆暮れ勘定であった。

観光の発展は旅館の原材料消耗品等の需要と従業員の増加は、商業活動にきわめて効果的に働いた。特に旅館との取引商店の売上高は著しい伸びを示した。

この取引を通じて手形支払方式も普及した。

又一方町民の暮らしの電気器具化も進み、電気洗濯機、冷蔵庫、テレビ等の普及の時代で、町のなかに多数の電気器具店も開業した。稲取地域はテレビの視聴が悪いため昭和41年今のハイキャットの前身である、共同アンテナを電気器具小売店の組合で設備している、(組合長黒田多兵衛)。このテレビの普及特にカラーテレビ進出は、当時町民の唯一の娯楽施設であった。映画劇場、稲取地域にはオリオン劇場、中央劇場、城東地区には白田劇場、熱川劇場等があったが、昭

和40年代の始め中央劇場を除いて3館が廃業している。又昭和20年代では家庭に於ける燃料は、木炭や薪であったが昭和30年代に入ると石油プロパンガスの出現によって、大きな変革を遂げた。プロパンガスの販売店を昭和30年に城東地域は(株)坂本プロパン(土屋茂)稲取地域では石油屋が営業を始め、ガソリンスタンドを、城東地域では(株)協和商事(横山貞夫)稲取地域では石油屋庄七丸が開業している。プロパンガスの使用は家庭風呂の普及をうながし従来稲取地域でのコミュニティの役割を担っていた浴場業、喜美の湯、都湯、浜の湯、千鳥湯、太田温泉、寿湯、帝産閣等があったが昭和40年代の始めから次々に廃業し昭和63年現在都湯、千鳥湯、寿湯の3軒となった。

もう一つの町民の暮らしの変革は自転車、オートバイの時代から昭和40年代の始めにかけてマイカーの時代に移行している。又観光サービス業の発展と共に美容院も増加した。

こうした町の産業構造の変革と、町民の生活の移り変りは、商業活動も近代化への歩を進め、大福帳から日常取引を記帳する方向に、一方全国的にも商業活動近代化の波は、セルフ販売方式の大型店が出現し流通革命と称された。当町第1号のセルフ販売方式の店舗は、昭和38年に(株)中勇ストア(中村勇也)であった。昭和43年に至って稲取の東海バス駅の跡

地に㈱ヤオハン稲取店が開業し当町には本格的な流通革命の波が押しよせてきた。このために商業店の組織として昭和43年10月に、東伊豆町サービス店会が結成され、(初代会長片野和正) シール券の発行や大売出し事業を始めた。これ以前にも、片野和正氏等の稲取地域の衣料品店の仲間が大売出し事業を実施していたのが商業組織の始まりかと思う。

● 商店数と販売額の推移 (商業統計)

|       | 商店数      | 売上高       |
|-------|----------|-----------|
| 昭和35年 | 329      | 167,684万円 |
| 昭和43年 | 399      | 352,596 " |
| 伸長率   | (121.3%) | (210.3%)  |

(2) 建設業

昭和35年の国勢調査による町の就業人口の構成は、第1次産業33.5%、第2次産業27.1%、第3次産業39.4%となっている。このうち第2次産業を昭和30年と対比してみると、16.6%の高い伸びを示している。これは、伊豆急等の建設工事のため、建設業の増加による一時的な現象であったが以後観光の発展によって建設業も大きくなってきた。特に昭和30年代から昭和40年代初めにかけての旅館建築の多くは、㈱斉藤建設(斉藤信夫) 竹内組(竹内国二)等による町の建設業者であった。昭和33年には建設協会が結成され初代会長には竹内国二氏であった。

就業人口調 (国勢調査)

|          | 東伊豆町  |      |       |      | 賀茂郡 |        |      |        |      |  |
|----------|-------|------|-------|------|-----|--------|------|--------|------|--|
|          | 30年   |      | 35年   |      | 指数  | 30年    |      | 35年    |      |  |
|          | 人員    | 構成比  | 人員    | 構成比  |     | 人員     | 構成比  | 人員     | 構成比  |  |
| 総数       | 5,968 | 100  | 7,615 | 100  | %   | 45,796 | 100  | 47,477 | 100  |  |
| 農業       | 2,171 |      | 1,925 |      |     | 18,101 | 39.5 | 16,434 | 34.6 |  |
| 林業       | 219   |      | 93    |      |     | 4,537  | 9.9  | 2,208  | 4.7  |  |
| 水産業      | 870   |      | 540   |      |     | 4,694  | 10.2 | 4,258  | 9.0  |  |
| 第1次計     | 3,260 | 54.6 | 2,558 | 33.5 |     | 27,332 | 59.6 | 22,900 | 48.3 |  |
| 鉱業       | 8     |      | 14    |      |     | 481    | 1.1  | 579    | 1.2  |  |
| 建設業      | 315   |      | 1,835 |      |     | 2,079  | 4.5  | 5,145  | 10.8 |  |
| 製造業      | 298   |      | 218   |      |     | 2,775  | 6.1  | 2,672  | 5.6  |  |
| 第2次計     | 621   | 10.5 | 2,067 | 27.1 |     | 5,335  | 11.7 | 8,396  | 17.6 |  |
| 卸売小売業    | 706   |      | 805   |      |     | 4,598  | 10.0 | 5,310  | 11.2 |  |
| 金融業      | 56    |      | 52    |      |     | 550    | 1.2  | 365    | 0.8  |  |
| 不動産業     |       |      | 8     |      |     |        |      |        |      |  |
| 運輸通信公益事業 | 395   |      | 475   |      |     | 2,174  | 4.7  | 2,515  | 5.3  |  |
| ガス電気水道   |       |      | 37    |      |     |        |      |        |      |  |
| サービス     | 869   |      | 1,535 |      |     | 4,959  | 10.9 | 6,813  | 14.5 |  |
| 公務       | 61    |      | 68    |      |     | 848    | 1.9  | 1,168  | 2.5  |  |
| 分類不能     |       |      | 10    |      |     |        |      | 10     |      |  |
| 第3次計     | 2,087 | 34.9 | 2,980 | 39.4 |     | 13,129 | 28.7 | 16,171 | 34.1 |  |

(3) 製造業

○ 造船、樽製造業

戦前戦後も栄えていた、近海漁業の根拠地としての稲取港に関連して、造船業が活気を呈していた。(株)稲取造船所(村木宇左衛門)を始め4事業所が木造船を建造していた。又、魚を入れる樽製造業も盛んで6事業が数えられていた。

○ 製材業

一方戦後の住宅建築は急ピッチで進められたため、木材需要がきわめて高いことにより製材業も盛んであった。

稲取地域には

- (有)大森製材(大森彦資)
- (有)外岡製材(外岡聖松)
- (有)遠藤製材(遠藤三郎)

城東地域には

- (有)飯田製材(飯田利作)(大川)
- (株)豊岡製材(望月武雄)(奈良本)
- 木田製材(木田信春)(奈良本)
- 相良製材(相良 ) (片瀬)
- 横山製材(横山武治)(白田)

○ 建具製造業も当時は手工業的色彩の濃いものであったが12事業所が、昭和30年代の終わりまでは営んでいた。

○ 菓子製造業

町民の味の楽しみとして戦時中の一時期を除いては、従来から、町のなかに菓子製造業は手づくりで数軒営まれていた

が観光の発展と共にみやげ品や旅館の「おくち」(お客様にお茶に添え出す菓子等。)等の需要が増え、熱川温泉の絹さやえんどうにちなんだ、名菓「成金豆」(大川の清月堂稲葉清)が生まれたほか新たな事業所も開業された。

昭和43年度工業統計

| 業種    | 事業所 |
|-------|-----|
| 食糧品   | 12  |
| 木材木製品 | 12  |
| 家具整備品 | 10  |
| 窯業土石  | 1   |
| 輸送機械  | 4   |
| 計     | 39  |

(4) つり船 観光みかん園

観光の進展は、第1次産業にも波及し漁船を利用した「つり船」が営まれた。稲取にはつり船組合も結成され(初代組合長山崎修)最盛期には13船もあった。

又「観光みかん園」も昭和30年に奈良本の長広園(楠山成正)が開園してから奈良本地域では昭和37年大上園、昭和41年には樋の口園、丸鉄園、昭和43年には丸幸園が開園し、稲取地区でも二つ堀、となり 等もみかん狩りを始め、昭和30年代の終りから昭和40年代の初めにかけては盛況であった。又農業者等のアパート建築もこの時期に激しく進んだ。

(5) 海運業

観光経済とはかかわりはないが、戦前

戦後にかけて、稲取地域の経済ウェイトが高いので、ここで記して置く。

海運業といっても、当町の船主が、東京横浜にて港内海運業を営んだことである。

第2次世界大戦たけなわの昭和15年頃戦争の拡大に伴い、著しく海上輸送が増加し、当町からも港内運送として通称はしけ業に多数が参入した。積荷物は主として鋼材と石炭であった。戦後も船舶の不足から、はしけ業の需要は一段と高まり、昭和25年頃には105事業主ではしけ船は120隻にもなった。

昭和30年代に至って、はしけ船も木造船から鉄鋼のタンカー船に移り26隻も運航していた。その売上高も正確につかむことはできないが、稲取港の水揚高の数倍であったといわれていることからして、10億近いものではなかったかと思われる。当時の稲取温泉の旅館売上高2億円余であることから、稲取の経営者は海運業か温泉旅館への進出かともどいを感じたものと思われる。

稲取機帆船共済組合名簿

S29年5月19日現在

- 1 佐々木 四郎
- 2 山崎 伝吉 (組合長)
- 3 鈴木 新太郎
- 4 鈴木 佐平
- 5 鈴木 政男
- 6 中山 伊之助
- 7 上島 保平
- 8 津島 正一
- 9 山崎 初男
- 10 山崎 助太郎
- 11 村木 長次郎
- 12 村木 千代松
- 13 埴 甚蔵
- 14 村木 弥七
- 15 鈴木 初太郎
- 16 古里 寅次郎
- 17 上島 善作
- 18 村木 吉夫
- 19 佐藤 忠衛門
- 20 小沢 福次郎
- 21 村木 定太郎

計21名

6. 商工会の設立

貧乏人は麦を食え、中小企業の一つや二つはつぶれてもしかたがないとの放言と、所得倍増計画で有名な池田内閣の時代に、地方の商工業の振興策をはかる目

的で「商工会等の組織に関する法律」が成立し全国各市町村に商工会が設立された。当町でも時の産業課長山田儀助、稲取では片野和正、城東では横山貞夫、土屋伝三郎等の奔走により、昭和35年10月東伊豆町商工会が誕生した。初代の会長は竹内国二、横山貞夫であった。昭和36年4月松井達之助経営指導員が配置され、旧稲取役場の2階が事務室で、時々ねずみが走る屋根裏のようなところで2人の職員で発足した。昭和39年に杉本光祥指導員が増員配置されその前年に富田衛職員も勤め業務も軌道に乗り出した。前述の通りこの時期は町の観光の創生期で、観光業者を始め活力が溢れていた。稲取の旅館業者がキャラバンに行って帰りに黒根トンネルを抜出したところで拡声器のボリュームを一ぱいに上げて「どんつくさん」の歌を響かせていたのが、商工会の土蔵の事務所からもよく聞こえたのが思い出される。こうした町の商工業者の新たな町経済づくりの意欲は、屋根裏の狭くきたない商工会事務所相談等に訪れてくれた。

商工会も、まず金融と政府金融機関のあっせんや経営の近代化指導に奔走し、又業界の協同化のため、稲取旅館組合、熱川観光旅館組合、熱川製材協同組合、稲取製材協同組合、東伊豆町サービス店会等の組織化をお世話し、一方まだこの時代は商工業者の大多数が営業の税務記

帳がなされていないため青色申告会と協力して税務記帳指導の普及に忙殺された。



商工業者の記帳事業所の推移

| 年     | 個人事業所<br>(青色申告) | 法人事業所 |
|-------|-----------------|-------|
| 昭和36年 | 46              | 26    |
| 昭和43年 | 458             | 85    |
| 伸率    | 99.5%           | 327%  |

#### 創成期のまとめ

以上の通り、町の創生期は経済的には観光経済への基盤づくりであった。電車の開通、道路の開通と、高度成長経済の時流を確実につかみ、資本力の弱い旅館業者が借金コンクリの建築とかげ口を言われながら開拓者の心を持って、これに挑戦したのを始め、その他町商工業者の自助努力の賜であるが、町に於ても昭和37年、熱川と稲取に臨海プール  
昭和39年、伊豆急KKに町有地を貸与しゴルフ場着工39年完成  
昭和39年、伊豆急北川駅の新設  
昭和40年、片瀬と北川に臨海プール  
等のほか温泉街の道路整備、町有地の旅館業者への貸与、観光協会への補助金

PR活動等積極的な援助、又商工会も旅館建築資金等のあっせん、経営の近代化指導に少なからずその役割を果たしてきたことも見過ごすことはできないであろう。

創生期の発展を下記の事業所統計でみる事ができる。

| 業種区分              | 昭和35年 | 昭和44年 | 伸率    |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 建設業               | 51    | 120   | 2.35% |
| 製造業               | 33    | 41    | 1.25% |
| 卸小売業              | 303   | 476   | 1.57% |
| 金融保険業             | 7     | 7     | 0     |
| 不動産業              | 2     | 86    | 430%  |
| 運輸通信業             | 13    | 39    | 300%  |
| 電気ガス水道業           | 3     | 3     | 0     |
| サービス業<br>(旅館業を含む) | 209   | 547   | 262%  |
| 合計                | 621   | 1319  | 212%  |

産業別就業者数

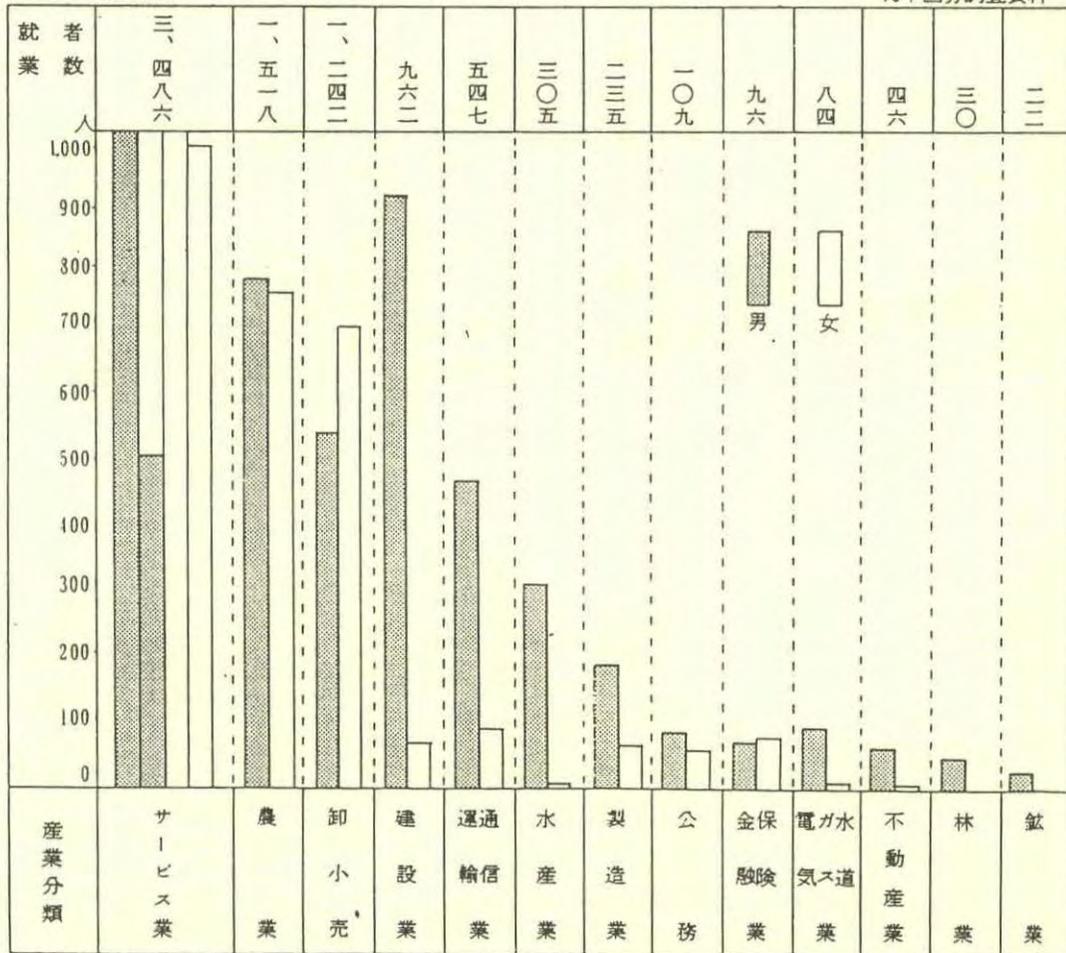
45年国勢調査資料

| 区分  | 農業    | 林業<br>狩猟業 | 漁業   | 鉱業          | 建設業   | 製造業  | 卸小売業  |
|-----|-------|-----------|------|-------------|-------|------|-------|
| 世帯数 | 1,518 | 30        | 305  | 22          | 962   | 235  | 1,242 |
| 割合  | 17.5% | 0.4%      | 3.5% | 0.2%        | 11.1% | 2.7% | 14.3% |
|     | 金融保険業 | 不動産業      | 運輸通信 | 電気ガス<br>水道業 | サービス業 | 公務   | 合計    |
|     | 96    | 46        | 547  | 84          | 3,486 | 109  | 8,682 |
|     | 1.1%  | 0.5%      | 6.3% | 0.9%        | 40.2% | 1.3% | 100%  |

男女別産業就業人口

(合計 8,682人)

45年国勢調査資料



第5節 狩野川台風災害復旧に力をそそぐ

1. 台風の通過経路

グァム島付近に発生した熱帯性低気圧は昭和33年9月21日午前9時に台風22号となり、同日午後北上しはじめてから急速に発達し、24日午後1時30分に最低気圧877ミリバールとなった。最盛期の暴風半径は400~500kmに及び、その最大風速は70m/秒という戦後最大の台風が発達した。

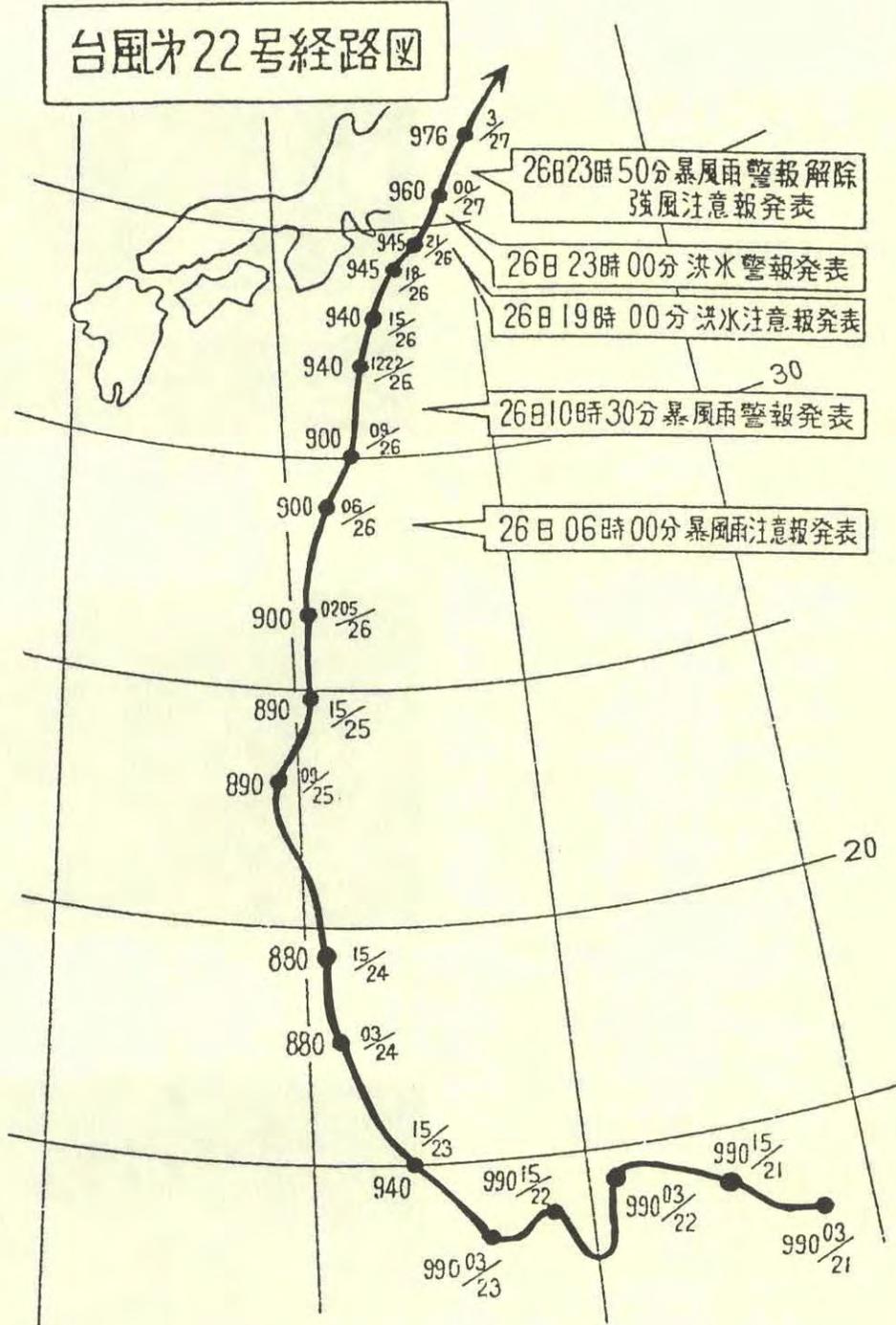
そして26日の昼頃には潮の岬の南東200km付近を毎時50kmの速さで北東に進み、やや衰弱して中心気圧940ミリバールとなり、同日夕刻頃から急に速度が落ち、毎時20km位で北東に進み午後10時頃伊豆半島南端をかすめ、関東に上陸し急速に衰弱した。

2. 風向風速

県南部の海岸地方では、25日夜半過ぎから、北東ないし東の15m/秒位の風がふき始めたが、台風接近とともに次第に強さを増し、台風が伊豆南部通過する頃が1番強く、風向は北よりで最大風速は中部で18~20m/秒位、東部で20~25m/秒位、又伊豆南部の海岸地方では35m/秒以上に達したところもあった。しかし台風が相模湾にぬけるとともに西部から次第に弱まって来た。



台風第22号経路図



3. 降雨量

県下は台風が潮の岬の南東200km付近に達した26日昼頃から次第に多くなり、特に伊豆地方では台風の最も近づいた午後7時から午後11時頃までが1番多く、網代では午後10時～午後11時の一時間に64.6ミリ、又湯ヶ島では午後9時～午後10時の1時間に120.0ミリの雨量を観測した。

しかし台風通過とともに急に弱まり、東部では夜半過ぎには雨はやんで次第に天気は回復した。

降り始めからの総雨量は中部では100～120ミリ、伊豆地方では多く平均して200～300ミリ、天城山の北側斜面では局地的に700ミリを越したところもあった。

このため、伊豆地方の河川は、はんらんし特に狩野川は大きな被害を出した。

4. 河川のはん濫、堤防決壊の状況

天城山系から白田地内に流れ出ている白田川は26日午後8時から刻々と増水し、午後8時30分頃片瀬地先において左岸約300m、右岸約30mが決壊し片瀬、白田両地区に50戸の浸水家屋を出した。

5. 人的物的被害の状況

9月26日午後から伊豆地方の被害が次々と発生した。

最終的被害状況は次の表の通りである。

| 合 計      | 下 田 署 |     |     | 別 置 町 村 別 |     | 狩野川台風被害状況一覧表 |
|----------|-------|-----|-----|-----------|-----|--------------|
|          | 城東町   | 河津町 | 稲取町 | 南伊豆町      | 下田町 |              |
| 死者       | 1     | 1   | 3   |           |     | 人的被害         |
| 負傷者      | 1     | 2   | 4   |           |     | 人的被害         |
| 行方不明     | 1     | 1   | 1   |           |     | 人的被害         |
| 全壊       | 1     | 1   | 2   |           |     | 建物被害         |
| 半壊       | 1     | 6   | 3   |           |     | 建物被害         |
| 流失       | 1     | 1   | 3   |           |     | 建物被害         |
| 床上浸水     | 2     | 3   | 3   | 2         | 3   | 建物被害         |
| 床下浸水     | 1     | 1   | 1   | 1         | 1   | 建物被害         |
| 一部破損     | 1     | 2   | 2   | 1         | 1   | 建物被害         |
| 非住家被害    | 1     | 5   | 7   |           |     | 建物被害         |
| 流失       | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 冠水       | 1     | 3   | 3   |           |     | 耕地被害         |
| 流失       | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 冠水       | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 道路損壊     | 1     | 3   | 2   |           |     | 耕地被害         |
| 橋りょう流失   | 1     | 1   | 4   |           |     | 耕地被害         |
| 堤防決壊     | 1     | 1   | 6   |           |     | 耕地被害         |
| 山(崖)すくれ  | 2     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 鉄軌道被害    | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 通信施設被害   | 1     | 2   | 3   |           |     | 耕地被害         |
| 木材流失     | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| ろかいる等船被害 | 1     | 1   | 1   |           |     | 耕地被害         |
| 罹災世帯数    | 5     | 7   | 9   | 2         | 3   | 人的被害         |
| 罹災者概数    | 10    | 13  | 14  | 3         | 3   | 人的被害         |
| 出動警察官数   | 1     | 1   | 1   |           |     | 人的被害         |
| 出動衛隊員数   | 1     | 1   | 1   |           |     | 人的被害         |
| 出動消防団員数  | 1     | 1   | 1   |           |     | 人的被害         |

(昭和三十四年三月十五日現在)

## 6. 交通機関被害の状況

### ①伊東線について

伊東市宇佐美地内のがけ崩れにより線路が埋没し、26日午後6時頃から全線不通となったが28日、熱海、宇佐美間が開通し、10月2日全線開通した。

## 7. 電灯、水道、温泉施設被害の状況

### (1) 電灯

電柱の倒壊流失等による電灯の被害は21市町村に及び伊豆半島における利用者95,874戸のうち約76%の67,657戸が被害を受けたのであるが、10月2日に65,643戸(約97%)が復旧し、10月13日完全復旧した。

災害地における停電は被災民に大きな不安感を抱かせるとともに、災害復旧作業等に重大な影響を与えた。

電灯関係の被害状況は次表の通りである。

| 市町村別  | 電 灯   |        |
|-------|-------|--------|
|       | 利用戸数  | 被害発生戸数 |
| 下 田 町 | 5,865 | 5,865  |
| 南伊豆町  | 3,223 | 3,223  |
| 稲 取 町 | 1,715 | 1,715  |
| 河 津 町 | 1,965 | 1,965  |
| 城 東 村 | 1,070 | 1,070  |

### (2) 水道

水道については 利用者67,635戸のうち約37%の25,133戸が断水したが、10月中旬伊東市及び、菰山村の一部を除き殆

どが復旧した。

水道関係被害状況は下表の通りである。

| 市町村別  | 水 道   |        |
|-------|-------|--------|
|       | 利用戸数  | 被害発生戸数 |
| 下 田 町 | 2,210 | 2,210  |
| 南伊豆町  | 2,210 | 2,210  |
| 稲 取 町 | 1,200 | —      |
| 河 津 町 | 339   | 5      |
| 城 東 村 | 580   | 580    |

### (3) 温泉施設

伊豆半島はその全域にわたって温泉があるが、その被害戸数は848戸を数え、その内224戸は10月6日までに復旧し、10月末日にはそのほとんどが復旧した。

温泉施設被害状況は下表の通りである。

| 市町村別  | 温 泉 施 設 |        |
|-------|---------|--------|
|       | 利用戸数    | 被害発生戸数 |
| 下 田 町 | 110     | 110    |
| 南伊豆町  | 33      | 13     |
| 稲 取 町 | 26      | —      |
| 河 津 町 | 47      | 20     |
| 城 東 村 | 56      | —      |



## 8. 農業関係の被害状況については下表の通りである。

農地及び農業施設被害

| 市町村名  | 農 地   |        | 農業施設 |        | 計                    |
|-------|-------|--------|------|--------|----------------------|
|       | 被害町歩数 | 被害額    | 箇所数  | 被害額    | 被害額                  |
| 下 田 町 | 3.4   | 10,550 | 23   | 6,170  | 16,720 <sup>千円</sup> |
| 南伊豆町  | 56.9  | 5,020  | 87   | 26,290 | 31,310               |
| 稲 取 町 | 13.2  | 4,600  | 4    | 3,800  | 8,400                |
| 河 津 町 | 33.7  | 25,940 | 67   | 8,310  | 34,250               |
| 城 東 村 | 11.6  | 38,270 | 20   | 11,710 | 49,980               |

## 9. 林業関係の被害状況については下表の通りである。

### (1) 村道被害

| 市町村名  | 箇所数 | 被害延長            | 被害額               |
|-------|-----|-----------------|-------------------|
| 下 田 町 | 4   | 80 <sup>m</sup> | 490 <sup>千円</sup> |
| 南伊豆町  | 1   | 21              | 150               |
| 稲 取 町 | —   | —               | —                 |
| 河 津 町 | —   | —               | —                 |
| 城 東 村 | 9   | 255             | 1,090             |

### (2) 治山施設被害

| 市町村名  | 箇所数 | 溪流面積              | 山腹面積               | 被害額                  |
|-------|-----|-------------------|--------------------|----------------------|
| 城 東 村 | 16  | 3.8 <sup>ha</sup> | 2.64 <sup>ha</sup> | 20,395 <sup>千円</sup> |
| 河津下田町 | 8   | 0.9               | 1.20               | 7,500                |
| 南伊豆町  | 3   | 0.5               | 0.20               | 3,675                |
| 稲 取 町 | 0   | 0                 | 0                  | 0                    |



10. 水産関係等施設被害については下表の通りである。

| 市町村名 | 被害金額総数  | 共同施設 |         | 漁具施設 |         | 漁船     |         | 水産物         |       |
|------|---------|------|---------|------|---------|--------|---------|-------------|-------|
|      |         | 件数   | 被害額     | 件数   | 被害額     | 件数     | 被害額     | 件数          | 被害額   |
| 城東村  | 千円<br>0 | 0    | 千円<br>0 | 0    | 千円<br>0 | 0      | 千円<br>0 |             | 千円    |
| 稲取町  | 2,060   | 1    | 60      | —    | 2,000   | 0      | 0       |             |       |
| 下田町  | 720     | 2    | 580     |      |         | 隻<br>3 | 140     |             |       |
| 河津町  | 0       | 0    | 0       | 0    | 0       | 0      | 0       |             |       |
| 南伊豆町 | 4,295   | 3    | 1,040   | 0    | 0       | 0      | 0       | 天草<br>3,500 | 3,200 |

11. 公衆衛生施設関係の被害のうち上水道の被害は次の通りである。

稲取町としては現在給水人口7,200人被害額221,000円であった。

観光及び商工業関係の被害としては次の通りである。

| 区分<br>市町村別 | 商業  |        | 工場  |         | 旅館  |        | 温泉施設 |       | 被害状況 |    |    |     | 総計  |         |
|------------|-----|--------|-----|---------|-----|--------|------|-------|------|----|----|-----|-----|---------|
|            | 被害数 | 被害額    | 被害数 | 被害額     | 被害数 | 被害額    | 被害数  | 被害額   | 流失   | 全壊 | 半壊 | 浸水  | 被害数 | 被害額     |
|            |     | 千円     |     | 千円      |     | 千円     |      | 千円    |      |    |    |     |     | 千円      |
| 城東村        | 64  | 11,100 | 8   | 100,000 | 18  | 10,650 | 25   | 4,900 | 7    | 30 | 21 | 57  | 115 | 126,650 |
| 稲取町        | 0   |        | 0   |         | 0   |        | 0    |       | 0    | 0  | 0  | 0   | 0   | 0       |
| 河津町        | 0   |        | 0   |         | 13  | 5,150  | 8    | 1,120 | 0    | 1  | 7  | 13  | 21  | 6,270   |
| 下田町        | 182 | 15,000 | 5   | 1,900   | 19  | 8,800  | 4    | 2,800 | 1    | 2  | 4  | 203 | 210 | 28,500  |
| 南伊豆町       | 96  | 14,400 | 8   | 16,000  | 12  | 50,000 | 11   | 8,600 | 1    | 3  | 8  | 116 | 127 | 89,000  |

12. 応急対策

台風22号の接近にともない、9月26日午後1時、県庁内に「災害応急対策本部」を開設し、水防本部と連絡を密にしつつ台風の進路、各河川の水位など情報を収集した。

同夜に至り、伊豆地方は豪雨により午後10時頃ついに狩野川ははんらんした。

午前5時、三島市田方県税事務所内に「伊豆災害応急対策本部」を設置した。現地との交通、通信等が全くとだえたため、庶務、調査、動員、救助、救護及び輸送の6ヶ班を編成し直ちに災害応急対策活動にはいった。

27日れい明動員された本庁職員、現地出先機関職員、警察、自衛隊と連絡をとりつ

つ計画的に救助活動にはいった。

10月1日山口副知事を本部長とする伊豆災害応急対策本部組織を再編成し救助活動にはいった。

被害市町村へ県職員及び賀茂支庁職員を急拠派遣、常駐し、町村事務の応援と指導並びに連絡にあたらせた。

応急対策の第一義を人命救助（遺体捜索）と医療救護において、この面に最大の努力を傾注したが、人的被害は静岡県史上、未曾有最大のものといわれ死者687名、行方不明241名（内城東村は死者1名行方不明7名）という悲惨を極めた。

救出には警察、地元消防団、地元住民はもとより、自衛隊及び海上保安庁等の協力連繋の下に陸、海、空より立体的な捜索救助が行われた。

(1) 応急仮設住宅

災害仮設住宅（1戸5坪80,000円）の状況

| 市町村別 | 第一次      |          | 第二次      |          | 計        |          |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|      | 計画<br>戸数 | 完了<br>戸数 | 計画<br>戸数 | 完了<br>戸数 | 計画<br>戸数 | 完了<br>戸数 |
| 城東村  | 3        | 3        | 2        | —        | 5        | 3        |
| 稲取町  | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        |
| 河津町  | 3        | 3        | 0        | 0        | 3        | 3        |
| 下田町  | 1        | 1        | 1        | 0        | 2        | 1        |
| 南伊豆町 | 1        | 1        | 0        | 0        | 1        | 1        |

③炊出し、その他により食品給与

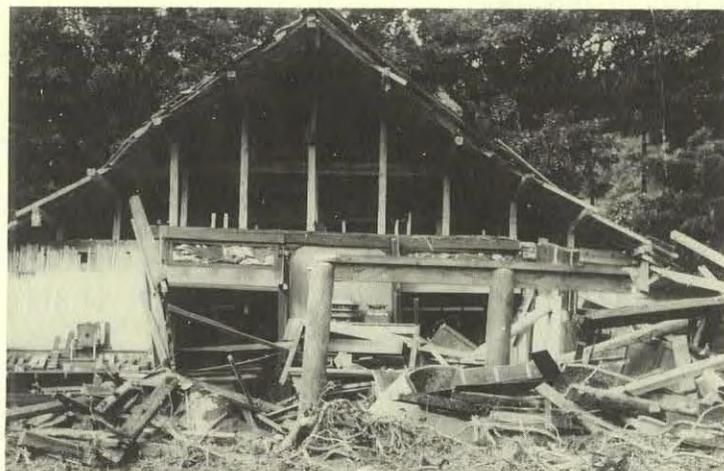
| 区分             | 人員    | 全給与量      | 左に対する<br>金額 | 副食代金   | 計       |
|----------------|-------|-----------|-------------|--------|---------|
| 城東村 炊出<br>食品給与 |       | kg        |             |        |         |
|                | 225   | 184,2755  | 15,666      | 7,084  | 22,750  |
| 稲取町 "          | 0     | 0         | 0           | 0      | 0       |
| 河津町 "          | 778   | 283,970   | 24,138      | 14,812 | 38,950  |
| 下田町 "          | 1,438 | 1,574,240 | 133,790     | 43,140 | 176,930 |
| 南伊豆町 "         | 1,317 | 1,442,000 | 122,570     | 74,980 | 197,500 |

(2) 住宅の応急修理及び生業資金の貸与について

| 市町村別 | 住宅の応急修理 |                     | 生業資金の貸与 |                     |
|------|---------|---------------------|---------|---------------------|
|      | 戸数      | 金額                  | 件数      | 金額                  |
| 城東村  | 1       | 20,000 <sup>円</sup> | 8       | 96,000 <sup>円</sup> |
| 稲取町  | 0       | 0                   | 0       | 0                   |
| 河津町  | 9       | 180,000             | 2       | 24,000              |
| 下田町  | 2       | 40,000              | 1       | 12,000              |
| 南伊豆町 | 4       | 80,000              | 1       | 12,000              |

(3) 学用品給与について

| 区分<br>町村名 | 全壊・流失 |     |       |       |       | 半壊・床上浸水 |       |        |       |        | 合計  |       |        |       |        |
|-----------|-------|-----|-------|-------|-------|---------|-------|--------|-------|--------|-----|-------|--------|-------|--------|
|           | 人員    | 教科書 |       | 文房具   | 計     | 人員      | 教科書   |        | 文房具   | 計      | 人員  | 教科書   |        | 文房具   | 計      |
|           |       | 数量  | 金額    | 金額    |       |         | 金額    | 数量     | 金額    |        |     | 金額    | 金額     | 数量    |        |
| 城東村       | 11    | 128 | 6,667 | 3,070 | 9,737 | 58      |       |        | 2,490 | 2,490  | 69  | 128   | 6,667  | 5,560 | 12,227 |
| 稲取町       | 0     | 0   | 0     | 0     | 0     | 0       | 0     | 0      | 0     | 0      | 0   | 0     | 0      | 0     | 0      |
| 河津町       | 54    | 33  | 2,010 | 1,140 | 3,150 | 21      | 90    | 5,802  | 1,410 | 7,212  | 26  | 123   | 7,812  | 2,550 | 10,362 |
| 下田町       | 4     | 50  | 2,860 | 730   | 3,590 | 96      | 1,307 | 69,957 | 3,960 | 73,917 | 100 | 1,357 | 72,817 | 4,690 | 77,507 |
| 南伊豆町      | 0     | 0   | 0     | 0     | 0     | 62      | 380   | 21,898 | 2,180 | 24,078 | 62  | 380   | 21,898 | 2,180 | 24,078 |



(4) 義援金の配分について

第1回(33年10月6日)

| 区分<br>町村名 | 死者 |       | 行方不明 |        | 重傷 |       | 全壊 |        | 流失 |         | 半壊 |        | 床上浸水 |         | 合計      |
|-----------|----|-------|------|--------|----|-------|----|--------|----|---------|----|--------|------|---------|---------|
|           | 件数 | 金額    | 件数   | 金額     | 件数 | 金額    | 件数 | 金額     | 件数 | 金額      | 件数 | 金額     | 件数   | 金額      |         |
| 城東村       | 1  | 3,000 | 7    | 21,000 | 1  | 1,500 | 9  | 54,000 | 24 | 144,000 | 5  | 12,500 | 76   | 76,000  | 312,000 |
| 稲取町       | 0  |       |      |        | 0  |       | 0  |        | 0  |         | 0  |        | 0    |         | 0       |
| 河津町       |    |       |      |        | 2  | 3,000 | 2  | 12,000 | 6  | 36,000  | 30 | 75,000 | 161  | 161,000 | 287,000 |
| 下田町       | 3  | 9,000 |      |        | 2  | 3,000 | 3  | 18,000 | 2  | 12,000  | 8  | 20,000 | 322  | 322,000 | 384,000 |
| 南伊豆町      |    |       |      |        | 2  | 3,000 | 4  | 24,000 |    |         | 13 | 32,500 | 311  | 311,000 | 370,500 |

註1. 死者3000円、行方不明3000円、重傷1500円、全壊6000円、半壊2500円、床上浸水1000円として算出

第2回(33年10月18日決定)

| 区分<br>町村名 | 死者 |       | 行方不明 |        | 重傷 |       | 全壊 |        | 流失 |         | 半壊 |         | 床上浸水 |         | 計       |
|-----------|----|-------|------|--------|----|-------|----|--------|----|---------|----|---------|------|---------|---------|
|           | 件数 | 金額    | 件数   | 金額     | 件数 | 金額    | 件数 | 金額     | 件数 | 金額      | 件数 | 金額      | 件数   | 金額      |         |
| 城東村       | 1  | 2,000 | 7    | 14,000 | 1  | 1,500 | 9  | 76,500 | 24 | 204,000 | 5  | 17,500  | 76   | 114,000 | 429,500 |
| 稲取町       | 0  |       |      |        | 0  |       | 0  |        | 0  |         | 0  |         | 0    |         |         |
| 河津町       |    |       |      |        | 2  | 3,000 | 2  | 17,000 | 6  | 51,000  | 30 | 105,000 | 161  | 241,500 | 417,500 |
| 下田町       | 3  | 6,000 |      |        | 2  | 3,000 | 3  | 25,500 | 2  | 17,000  | 8  | 28,000  | 322  | 483,000 | 562,500 |
| 南伊豆町      |    |       |      |        | 2  | 3,000 | 4  | 34,000 |    |         | 16 | 56,000  | 311  | 466,500 | 559,500 |

註 死者2000円、行方不明2000円、重傷1500円、全壊8500円、流失8500円、半壊3500円、床上浸水1500円として算出

第3回（33年10月31日決定）

| 区分<br>町村名 | 死者 |       | 行方不明 |        | 重傷 |       | 全壊 |        | 流失 |         | 半壊 |        | 床上浸水 |         | 計       |
|-----------|----|-------|------|--------|----|-------|----|--------|----|---------|----|--------|------|---------|---------|
|           | 件数 | 金額    | 件数   | 金額     | 件数 | 金額    | 件数 | 金額     | 件数 | 金額      | 件数 | 金額     | 件数   | 金額      |         |
| 城東村       | 1  | 2,000 | 7    | 14,000 | 1  | 1,000 | 9  | 63,000 | 24 | 168,000 | 5  | 13,500 | 76   | 76,000  | 337,500 |
| 稲取町       | 0  |       |      |        |    |       |    |        |    |         |    |        |      |         |         |
| 河津町       |    |       |      |        | 2  | 2,000 | 2  | 14,000 | 6  | 42,000  | 30 | 81,000 | 161  | 161,000 | 300,000 |
| 下田町       | 3  | 6,000 |      |        | 2  | 2,000 | 3  | 21,000 | 2  | 14,000  | 8  | 21,600 | 322  | 322,000 | 386,600 |
| 南伊豆町      |    |       |      |        | 2  | 2,000 | 4  | 28,000 |    |         | 16 | 43,200 | 311  | 311,000 | 384,200 |

註 死者2000円、行方不明2000円、  
重傷1000円、全壊7000円、流失7000円、  
半壊2700円、床上浸水1000円として算出

13. 災害復旧

災害復旧については国の査定を受け補助金を受け復旧した。

(1) 公共土木災害

|         | 33年実施 |             | 34年実施 |              | 計  |        |
|---------|-------|-------------|-------|--------------|----|--------|
|         | 件数    | 事業費         | 件数    | 事業費          | 件数 | 事業費    |
| 33年9月災害 | 10    | 千円<br>6,035 | 7     | 千円<br>13,754 | 17 | 19,789 |

(2) 農地、農業用施設災害

|         | 33年実施 |             | 34年実施 |             | 35年実施 |              | 36年実施 |             | 計  |              |
|---------|-------|-------------|-------|-------------|-------|--------------|-------|-------------|----|--------------|
|         | 件数    | 事業費         | 件数    | 事業費         | 件数    | 事業費          | 件数    | 事業費         | 件数 | 事業費          |
| 33年9月災害 | 24    | 千円<br>6,907 | 21    | 千円<br>6,504 | 18    | 千円<br>11,974 | 8     | 千円<br>4,544 | 71 | 千円<br>29,919 |
| ( 農地 )  | 8     | 1,558       | 14    | 3,524       | 7     | 4,223        | 6     | 2,857       | 35 | 12,162       |
| ( 施設 )  | 16    | 5,349       | 7     | 2,980       | 11    | 7,751        | 2     | 1,687       | 36 | 17,767       |

第6節 教育

1. 熱川中学校「鉄筋三階建校舎」完成

昭和39年7月、町村合併前からの城東地区住民の念願だった中学校が奈良本1296-3（カラスド）に鉄筋三階建新校舎が落成した。

校歌の一節に歌われているように天城の山に陽は映える、海原遠く気は澄みと、太平洋に浮ぶ伊豆七島の眺望、天城連山を掌中にした、まことに恵まれた教育環境である。

昭和30年、町村合併前に落成した鉄筋三階建新校舎、稲取中学校と合わせ賀茂地区の市町村に先がけ、稲取地区、城東地区に立派な中学校の建設をみたことは、如何に教育に対する期待と先見性に身のひきしまる思いである。



昭和22年、新制中学校が小学校校地を借りて発足以来十余年、町内稲取、熱川の二中学校が整備されたことは町民の誇りでもある。

2. 幼稚園の整備と充実

東伊豆町の幼児教育は、戦後の混乱のうずまく頃、「三つ児の魂 百までも」の諺の如く、いち早くその重要性に目をつけ各地域で取りくんだ。

その発足にあたっては、人々の善意と奉仕による力が大きかったとかがわれる。

早くは昭和22年頃から取り上げ昭和20年代にはまがりなりにも幼稚園の形ができて上がってきた。

小学校の教室を借りたり、寺院で又青年会館でとさまざまに間借りでスタートしたのである。

(1) 幼稚園の公立化と整備

昭和36年、町内四幼稚園がようやく町立となり、正式に東伊豆町立幼稚園となり正式の公立幼稚園となる。

(2) 双葉幼稚園

昭和38年9月1日、東伊豆町立双葉幼稚園として独立園舎をもち正式開園の運びとなった。



昭和28年4月1日、片瀬龍淵院に開園

以来およそ10年、熱川小学校白田分校が廃校となったあとを整備し幼稚園舎とした。合併後の町内4幼稚園の中で最初の独立した園舎をもった町立幼稚園として、片瀬・白田の園児52名、学級数2学級、教諭2名の公立幼稚園として開園された。

園長は当分の間、熱川小・中学校の校長が兼務園長ということでこの任にあたった。

### (3) 大川幼稚園

昭和36年4月1日、公立となり東伊豆町立大川幼稚園となる。

昭和28年5月1日、大川幼稚園として発足した当時は、通園範囲、大川区、北川区とし2年保育でスタートした。

園児数は、年長児44名、年少児19名、北川区からの通園児16名を数えた。その後昭和31年4月より保育年限が1ヶ年となった。ちなみにこの年の園児数25名であった。

昭和42年4月より北川地区が自由学区になったため大川幼稚園への入園児はなくなった。

### (4) 熱川幼稚園

昭和36年4月1日、公立となり東伊豆町立熱川幼稚園となる。

昭和28年5月1日、奈良本区営で青年会館を仮りの園舎に白百合幼稚園として発足。園児数68名、1学級であった。

昭和41年9月7日、新築移転したあとの旧熱川中学校校舎の一部を改築移転し、

保育室2室、職員室1室とまがりなりにも園舎をもち幼稚園としての体裁がととのってきた。

しかしまだ1年保育が当分続いていた。



昭和42年4月より北川区が自由学区となり、北川の園児が全員熱川幼稚園に通園することとなった。

園児の在席も66名となった。

## 第7節 産業・土木(農・漁業)

### 1. 東伊豆町・河津町6漁協合併新たに稲取漁業協同組合設置される

昭和19年4月稲取町漁業会を設立し、昭和24年9月には稲取町漁業協同組合となり、翌年から協同出荷を始めた。

昭和27年には漁業法が改正され、町の保有していた漁業権は漁民のものとなった。

ただテングサ経営は漁協が経営を町に一任したために昭和31年まで町の経営が続いた。昭和32年からは町と漁協の協同経営となり、昭和34年以降は漁協の単独



経営となった。

昭和39年6月13日に東賀地区漁協合併協議会が発足し、東伊豆町内の5漁協と、河津町内の2漁協が昭和40年1月30日に合併認可され、昭和40年3月19日に合併登記が完了。ここに新たに稲取漁業協同組合が誕生した。ただし北川漁協は昭和44年7月31日に合併をした。

#### (1) 稲取漁協協同組合構成

資本金 68.168千円(決算期)年1回  
=12月

本所 賀茂郡東伊豆町稲取355  
電話番号(0557)95-2021  
昭和40年3月19日 合併  
河津支所-白田支所-大川北川支所

営業種目 イ、信用事業29.5% ロ、  
購買事業22.5% ハ、販売事業16.1% ニ、製氷冷凍餌料11.0% ホ、漁業自営業17.5% ヘ、指導事業3.0% ト、  
其の他0.4%

役員・職員 イ、(組合長理事)1(専

務理事)1(常務理事)1  
(常勤理事)3(他)9(監事)4(参事)1(課長)3  
(他)28 合計48名

#### (2) 稲取漁港の沿革

①所在地 静岡県賀茂郡東伊豆町大字  
稲取

②漁港指定種別第3種漁港指定年月日  
昭和27年2月12日

③本港は伊豆半島海岸のほぼ中央に位置し古くから漁業の根拠地として栄えて来た。

港といっても小さな入江であって風浪が侵入して漁船の碇繋に安全でなかったため数次に亘り町費を以って防波堤の築造に努めたが規模が小さいため漸次破壊されその完備を期すことが出来なかった。

昭和7年より国庫補助を受け第一工事に着手南防波堤(140m)北防波堤(130m)物揚場(90m)を、昭和13年3月に竣工し漁港としての活動を始め、漁船の入港数が急激に増加し昭和21年度より第2期工事が始まり防波堤の延長及び嵩上げ物上場(85m)の延長を計り、昭和26年に完成した。其の後も本港の利用漁船の増加と相俟って、水揚高も漸次上昇し又県外船の利用度も増して、水揚施設等の不足を生じ、昭和36年度より修築事業により、物揚場(96

m) 護岸工(66m)及び防波堤延長(30m)を施行。尚引続き第3次整備計画により施設の整備を計り、第7次整備計画により現在の港中工事はすべ完了し現在にいたっている。

④漁業は1本釣り(きんめ・むつ・いか・さば)等が主で、全水揚高の90%を占めている。

漁穫も潮流により変動はあるが、漁船の大型化、漁船漁業の近代化、漁港整備により外来船も多くなっていたが、現在は(さば)漁もなくなり、外来船の入港もなく、地元船が主力となって現在にいたっている。

⑤畜養所 構造改善事業により昭和40年12月完成

(工費) 県補助町補助 5,647,000

総工費 8,596,000

(3) 次に合併次及び5年毎の組合員数、漁船数を記載してみる。

①組合員数

| 年度 | 組合員数  | 内 訳  |       |
|----|-------|------|-------|
|    |       | 正組合員 | 準組合員  |
| 39 | 1,720 | 545  | 1,175 |
| 40 | 1,715 | 548  | 1,167 |
| 45 | 1,803 | 419  | 1,384 |
| 50 | 1,788 | 323  | 1,465 |
| 55 | 1,767 | 257  | 1,510 |
| 60 | 1,819 | 256  | 1,563 |
| 62 | 1,819 | 246  | 1,573 |

②漁船勢力

| 年度 | 隻数計 | 内 訳 |      |
|----|-----|-----|------|
|    |     | 動力船 | 無動力船 |
| 49 | 197 | 191 | 6    |
| 50 | 199 | 192 | 7    |
| 55 | 178 | 171 | 7    |
| 60 | 205 | 199 | 6    |
| 62 | 211 | 206 | 5    |

昭和36年度より始まった第2次漁港整備計画により稲取漁港整備計画は実施された。(別途稲取漁港修築事業参照)

又地域沿革漁業構造改善事業は昭和60年度より実施された。(別紙地域沿岸漁業構造改善事業参照) 事業は継続中である。

(4) 次にてんぐさの年度別水揚高及び最近の6年間の漁穫高は別表のとおりである。

てんぐさ年度別水揚高

|    |    | 数 量 (kg)  | 金 額 (円)    |
|----|----|-----------|------------|
| 昭和 | 34 | 313,440   | 14,692,485 |
|    | 35 |           |            |
|    | 36 | 296,061   | 13,534,344 |
|    | 37 | 201,263   | 8,267,154  |
|    | 38 | 395,825   | 17,504,500 |
|    | 39 |           | 17,856,150 |
|    | 40 | 495,540   | 16,087,758 |
|    | 41 | 92,704    | 65,596,389 |
|    | 42 | 99,750    | 45,646,797 |
|    | 43 | 576,271.5 | 22,088,982 |
|    | 44 | 132,152   | 53,278,475 |
|    | 45 | 441,518   | 16,526,952 |
|    | 46 | 454,284   | 17,556,205 |
|    | 47 | 263,321.1 | 16,270,911 |
|    | 48 | 407,013.7 | 30,493,285 |
|    | 49 | 277,248   | 28,717,414 |
|    | 50 | 331,195.4 | 33,595,263 |
|    | 51 | 271,435.1 | 40,655,250 |
|    | 52 | 294,670   | 37,135,936 |
|    | 53 | 326,899.4 | 37,902,693 |
|    | 54 | 317,645.4 | 54,390,821 |
|    | 55 | 221,241.9 | 33,755,576 |
|    | 56 | 254,638.9 | 37,652,193 |
|    | 57 | 221,175.2 | 40,833,576 |
|    | 58 | 197,807.5 | 45,847,659 |
|    | 59 | 225,172.6 | 45,488,935 |
|    | 60 | 52,244.3  | 51,403,331 |
|    | 61 | 44,721.4  | 49,096,349 |
|    | 62 | 51,186.1  | 62,455,268 |

漁種と水揚高・金額

| 品名     | 年度<br>適用 | 昭和57年       | 昭和58年       | 昭和59年              |
|--------|----------|-------------|-------------|--------------------|
|        |          | (kg)<br>(円) |             |                    |
| い か    |          | 16,472.8    | 31,518.75   | 19,399.2           |
|        |          | 14,799,677  | 26,318,366  | 17,307,789         |
| さ ば    |          | 17,430.0    | 15,720.2    | 16,284.5           |
|        |          | 3,165,721   | 2,693,968   | 2,234,719          |
| あ じ    |          | 10,022.2    | 15,386.655  | 8,905.83           |
|        |          | 10,626,034  | 16,320,403  | 14,018,545         |
| き ん め  |          | 262,761.25  | 296,575.3   | 544,869.0          |
|        |          | 201,256,403 | 211,606,178 | 245,197,144        |
| えび・さゞえ |          | 16,086.75   | 17,977.52   | 13,3844.25         |
|        |          | 107,191,212 | 121,296,665 | 92,138,015         |
|        |          | 35,527.8    | 44,032.5    | 34,536.65          |
|        |          | 63,579,066  | 60,842,121  | 60,298,901         |
| む つ    |          | 83,479.6    | 55,314.1    | 45,639.35          |
|        |          | 102,075,906 | 72,584,220  | 71,503,964         |
| め だ い  |          | 1,125.25    | 769.45      | 721.3              |
|        |          | 1,478,110   | 1,276,944   | 1,317,327          |
| 沖 ゴ イ  |          |             |             |                    |
| な わ    |          |             |             |                    |
| 尾赤・むろ  |          | 4,031.8     | 1,031.6     | 1,607.5            |
|        |          | 2,070,223   | 329,155     | 661,901            |
| まぐろ類   |          | 20,223.4    | 33,034.7    | 18,772.4           |
|        |          | 17,993,898  | 25,882,321  | 15,534,205         |
| さめ類    |          | 54,712.0    | 76,301.8    | 77,373.5           |
|        |          | 9,019,660   | 12,237,531  | 12,683,010         |
| 払 魚    |          | 8,977.8     | 6,955.2     |                    |
|        |          | 5,051,780   | 4,481,431   |                    |
| た い    |          | 1,797.0     | 1,238.7     | 182.3              |
|        |          | 2,465,863   | 2,861,348   | 388,244            |
| 伊 先    |          | 5,770.0     | 4,882.25    | 4,376.55           |
|        |          | 6,812,569   | 5,964,092   | 71,503,964         |
| の り    |          |             |             |                    |
| ぶ り 類  |          | 9140.6      | 2,301.05    | 5,928.9            |
|        |          | 10,283,340  | 7,596,456   | 6,223,676          |
| き め じ  |          | 415.8       | 376.2       | 11.7               |
|        |          | 271,441     | 322,047     | 11,145             |
| そ の 他  |          | 43,677.0    | 52,725.05   | 73,784,555         |
|        |          | 24,622,259  | 31,803,334  | 45,909,306         |
| 小 計    |          |             |             |                    |
| 北川支所   |          |             | (かつお)       | 1,769.6<br>614,571 |
| 総 合 計  |          | 599,046.45  | 674,564.32  | 874,286,385        |
|        |          | 586,145,450 | 608,471,447 | 639,369,241        |
| さんま    |          | 4,071.4     | 5,222.9     | 5,001.8            |
|        |          | 2,032,516   | 1,461,423   | 1,036,529          |
| 宗田類    |          | 3,324.0     | 8,201.1     | 737.5              |
|        |          | 1,277,722   | 2,593,444   | 1,143,347          |

| 品名     | 年度<br>適用 | 昭和60年       | 昭和61年       | 昭和62年       |
|--------|----------|-------------|-------------|-------------|
|        |          | (kg)<br>(円) |             |             |
| い か    |          | 鮮魚類 (計)     | 鮮魚類 (計)     | 鮮魚類 (計)     |
|        |          | 794,450.4   | 718,797.06  | 556,750.5   |
| さ ば    |          | 576,391,717 | 561,492,883 | 396,609,482 |
|        |          |             |             |             |
| あ じ    |          |             |             |             |
|        |          |             |             |             |
| き ん め  |          | 535,274.1   | 406,569.9   | 287,397.7   |
|        |          | 392,315,833 | 318,112,494 | 233,069,899 |
| えび・さゞえ |          | 11,144.4    | 8,684.11    | 6,126.0     |
|        |          | 86,242,448  |             | 54,466,756  |
|        |          | 36,750.75   | 28,456.37   | 18,297.1    |
|        |          | 59,431,924  | 50,824,104  | 39,157,140  |
| む つ    |          | 92,492.1    | 79,065.8    | 32,498.3    |
|        |          | 115,292,335 | 131,651,119 | 53,094,456  |
| め だ い  |          |             |             |             |
| 沖 ゴ イ  |          |             |             |             |
| な わ    |          |             |             |             |
| 尾赤・むろ  |          |             |             |             |
| まぐろ類   |          |             |             |             |
| さめ類    |          |             |             |             |
| 払 魚    |          |             |             |             |
| た い    |          |             |             |             |
| 伊 先    |          |             |             |             |
| の り    |          |             |             |             |
| ぶ り 類  |          |             |             |             |
| き め じ  |          |             |             |             |
| そ の 他  |          | 66,568.27   |             |             |
|        |          | 40,873,548  |             |             |
| 小 計    |          |             |             |             |
| 北川支所   |          |             |             |             |
| 総 合 計  |          | 908,913.82  | 755,937.54  | 581,173.6   |
|        |          | 762,939,631 | 687,535,932 | 490,233,378 |
| さんま    |          |             |             |             |
| 宗田類    |          |             |             |             |

## 2. 稲取漁港修築事業

稲取漁港は伊豆半島のほぼ中央に位置しており、古くから漁業の根拠地として栄えて来た。地形の上からも良湾を控えていたので、これを利用して次第に港としての形態が整って来たものである。何れにしても港口が北東方に開いており、この港の悩みはなんといっても港内に風浪が侵入して船の定繋安全でなかったことである。

漁港が現在の形態を備える以前にも、古くから数次に亘って町費を支出して港口の防波堤の築造に努めたが、その規模も小さかったため、漸次破壊されるという状態が繰り返され完成することが出来なかった。この辺一帯にかけて吹く北東風は猛烈を極め、港内に在っても船舶は安定出来ず、漁船は港内周辺の陸地にひき揚げて収容する状態であった。

昭和7年に国庫から助成を受け漁港修築工事を始め昭和13年迄継続し、南防波堤140m、北防波堤130m、物揚場90mを完成した。

北東方向に開口していた天然の入江は一応人為的に防波堤によって遮蔽されることとなった。これが第1期工事である。

戦時中はこれ等の工事も中断されたが、戦後第2期工事として昭和21年から昭和29年に掛けて再び港の修築工事が始められた。

この第2期工事に於ては既設港口の防

波堤の延長及びその嵩上げ工事、物揚場85mの延長工事が行われたのである。その事業費等については昭和22年以前は詳ではないが、昭和23年は、5,000,000円、昭和24年8,000,000円、昭和25年10,000,000円である。

第1次漁港整備計画は昭和26年から昭和30年度に至る5ヶ年間の漁港整備事業を計画したが、稲取港については未だ漁港整備の長期計画がなく、国の計画には採用されなかった。

然しながら局部的な改築の必要があったので単年度事業として、昭和27年度に3,500,000円、昭和28年度に7,800,000円、昭和29年度に7,100,000円と改築工事が行われた。

稲取漁港は昭和27年に漁港法の規定に基づいて農林大臣から漁港の指定を受けた。

稲取漁港整備計画は、国の第2次漁港整備計画に採用されることとなった。総事業費42,900,000円をもって昭和36年度14,000,000円、昭和37年度16,000,000円で物揚場を設置した。

以下年度毎の事業費は次の通りである。

| 年度   | 内 容  | 事業費         | 負 担 区 分     |             |             | 摘 要       |
|------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
|      |  |             | 国費負担        | 県費負担        | 町負担         |           |
| 36年度 | 物揚場工<br>46.0m                                | 14,000,000  | 7,000,000   | 3,500,000   | 3,500,000   |           |
| 37 " | 物揚場工<br>44.0m                                | 16,000,000  | 8,000,000   | 4,000,000   | 4,000,000   |           |
| 38 " | 防波堤工<br>52.5m                                | 35,000,000  | 17,500,000  | 8,750,000   | 8,750,000   | 第3次漁港整備計画 |
| 39 " | 防波堤工37.8m<br>函塊製作2基                          | 48,500,000  | 24,250,000  | 12,125,000  | 12,125,000  |           |
| 40 " | 防波堤上部工30.0m<br>函塊製作2基                        | 50,000,000  | 25,000,000  | 12,500,000  | 12,500,000  |           |
| 41 " | 防波堤堤体工30.0m<br>上部工5.0m                       | 55,000,000  | 27,500,000  | 16,500,000  | 11,000,000  |           |
| 42 " | 防波堤工27.0m<br>函塊製作3基                          | 55,000,000  | 27,500,000  | 16,500,000  | 11,000,000  |           |
| 43 " | 防波堤工33.0m<br>函塊製作1基                          | 55,000,000  | 27,500,000  | 10,500,000  | 11,000,000  |           |
| 44 " | 防波堤工<br>150.0m                               | 63,300,000  | 31,650,000  | 18,990,000  | 12,660,000  | 第4次漁港整備計画 |
| 45 " | 東防波堤上部工7.4m<br>離岸堤基礎工47.7m<br>堤体工20.0m       | 66,500,000  | 33,250,000  | 19,950,000  | 13,300,000  |           |
| 46 " | 離岸堤堤体工40.0m<br>上部工20.0m函塊4基                  | 67,000,000  | 33,500,000  | 20,100,000  | 13,400,000  |           |
| 47 " | 沖防波堤基礎工47.6m<br>上部工70.0m堤体工30.0m<br>道路130.0m | 119,700,000 | 59,850,000  | 35,910,000  | 23,940,000  |           |
| 48 " | 船揚場工100m<br>道路工151.7m<br>-4.0m半壁工115.0m      | 80,000,000  | 40,000,000  | 24,000,000  | 16,000,000  | 第5次漁港整備計画 |
| 49 " |  | 80,000,000  | 40,000,000  | 24,000,000  | 16,000,000  |           |
| 50 " |  | 60,000,000  | 30,000,000  | 18,000,000  | 12,000,000  |           |
| 51 " | 北防波堤20m<br>道路工330m                           | 70,000,000  | 35,000,000  | 21,000,000  | 14,000,000  |           |
| 計    |  | 935,000,000 | 467,500,000 | 272,325,000 | 195,175,000 |           |

### 3. 魚礁事業

「とる漁業」から「つくる漁業」へ転換もひとつの対策である。

沿岸漁場整備開発事業により並型魚礁や大型魚礁を設置し、天然礁との有機的な関連をもたせた魚場造成を計るため実施した。

昭和36年度～昭和62年度迄沖合500m～1,500mの水深20m～40mの砂地へ設置した。

事業費は107,721,000円である。年度毎の事業費は次のとおりである。

| 年度   | 個数           | 事業費         | 負担区分       |           |            | 摘要            |
|------|--------------|-------------|------------|-----------|------------|---------------|
|      |              |             | 県費補助金      | 町補助金      | 地元補助金      |               |
| 36年度 | 個<br>210     | 1,500,000   | 1,250,000  |           | 250,000    |               |
| 37 " | 396          | 1,620,000   | 1,350,000  |           | 270,000    |               |
| 38 " | 350          | 1,500,000   | 1,250,000  |           | 250,000    |               |
| 39 " | 260          | 1,500,000   | 1,250,000  |           | 250,000    |               |
| 48 " | 158          | 3,000,000   | 2,500,000  |           | 500,000    |               |
| 49 " | 289          | 8,400,000   | 7,000,000  |           | 1,400,000  |               |
| 51 " | 111          | 4,280,000   | 3,567,000  |           | 713,000    |               |
| 52 " | 249          | 7,270,000   | 4,175,000  | 2,260,000 | 835,000    | タイヤ魚礁<br>120ヶ |
| 53 " | 20基<br>126   | 36,807,000  | 35,867,000 |           | 940,000    | 大型魚礁<br>20基   |
| 54 " | 120          | 5,340,000   | 4,450,000  |           | 890,000    |               |
| 55 " | 124          | 5,610,000   | 4,675,000  |           | 935,000    |               |
| 56 " | 134          | 6,192,000   | 5,160,000  |           | 1,032,000  |               |
| 57 " | 129          | 6,072,000   | 5,060,000  |           | 1,012,000  |               |
| 59 " | 137          | 6,324,000   | 5,270,000  |           | 1,054,000  |               |
| 60 " | 125          | 6,126,000   | 5,105,000  | 1,021,000 | 0          |               |
| 61 " | 126          | 6,180,000   | 5,150,000  | 1,030,000 | 0          |               |
| 計    | 20基<br>3,044 | 107,721,000 | 93,079,000 | 4,311,000 | 10,331,000 |               |
|      |              |             |            |           |            |               |

4. 東伊豆町・河津町農協合併 新たに伊豆東農業協同組合生まれる。

(1) 農協のあゆみ

昭和38年4月30日、東伊豆町河津管内5農協（熱川、南城東、稲取、下河津、上河津）を再編成し、両町地域を1円とする東賀地区農協再編成促進協議会が発足した。そして3ヶ年におよぶ検討の結果、昭和41年1月4日新農協の設立登記を完了し、昭和41年新春めでたく伊豆東農業協同組合が誕生した。



合併後は組織の整備、営農指導体制の強化、経営の近代化（施設の整備、事務の電算化）、職員教育に重点をおいた。組織は地域組織（支所運営委員会、営農会、婦人部、青年部）、業種別組織（柑橘、花卉、そ菜、畜産等）の編成を行い組合員との結合の強化と指導事業の効率化、共販の推進を図った。

42年度の本所（鉄筋3階一部5階建）及び南城東支所をはじめ、51年度までに各支所、出張所は何れも地区の拠点に相応した鉄筋または鉄骨、冷暖房の建物に

生まれかわった。

近代化施設として、昭和41年度に熱川冷風貯蔵庫、農機具センター、42年度柑橘第2共選場が竣工した。

45年度花卉共同育苗施設完成、48年度稲取倉庫完成、50年度花卉苗冷蔵施設完成、熱川ガソリンスタンドが完成した。

(2) 次に農協の概況を記載してみる。

①旧熱川農業協同組合

地区の概況

東伊豆町の東部に位し、熱川、北川、大川の東海岸3部落で形成される。農業、漁業、観光と産業は多彩である。

沿革

昭和23年、城東村東農業協同組合として奈良本に本所を置き、北川、大川に支所を配置し組合員377名で発足した。

昭和34年城東村東農協から熱川農協に名称を変更、昭和41年1月1日伊豆東農協熱川支所となった。

②旧南城東農業協同組合

地区の概況

東伊豆町の中央で、白田、片瀬の両部落からなっている。

産業は農業、観光を主体とし農業はみかん中心の地帯である。

都市化と共に兼業、又は農業外への転向が目立っている。

沿革

昭和23年南城東農業協同組合が設立され、組合員386名で発足した。

昭和41年1月1日、伊豆東農協南城東支所となった。

③旧稲取農業協同組合

地区の概況

伊豆半島の東海岸に面した農漁村で、町営天草採取により町財政は豊かな地帯であった。

かつて天下の三大模範村とした田村翁が、柑橘の栽植を進め、農家経済も恵まれていた。組合員約500戸（内専業200

戸）

温州125ha、夏柑90ha、雑柑3haである。沿革

昭和23年稲取町農業協同組合が設立された。

昭和41年1月1日伊豆東農協稲取支所となった。

(3) 次に合併時及び5年毎の農家数、農家人口等を記載してみる。

①農家数・農家人口及び農業従事者数

単位：戸・人

| 年度    | 総数  | 専業農家 | 兼業農家 |      |      | 16歳以上農家人口 |
|-------|-----|------|------|------|------|-----------|
|       |     |      | 計    | 農業が主 | 農業が従 |           |
| 昭和40年 | 998 | 334  | 664  | 225  | 439  | 3,641     |
| 45    | 944 | 275  | 669  | 178  | 491  | 3,620     |
| 50    | 752 | 176  | 576  | 154  | 422  | 2,875     |
| 55    | 766 | 161  | 605  | 143  | 462  | 2,807     |
| 60    | 726 | 155  | 571  | 113  | 458  | 2,642     |

資料：農業センサス

農業従事者数

単位：人

| 年次    | 自家農業だけに従事した人 | 自家農業とその他の仕事に従事した人 |          |        |        |     | 合計    |
|-------|--------------|-------------------|----------|--------|--------|-----|-------|
|       |              | 仕事が主の人            | 自家農業が主な人 | 仕事が主な人 | その他の仕事 | 仕事  |       |
| 昭和50年 | 1,223        | 855               | 145      | 138    | 540    | 519 | 1,908 |
| 55    | 1,204        | 735               | 153      | 146    | 571    | 537 | 1,928 |
| 60    | 1,092        | 733               | 82       | 72     | 535    | 520 | 1,709 |

資料：農業センサス

②経営耕地面積

単位：a

| 区分<br>年次 | 経営耕地   |       |       |        | 1戸当り<br>平均耕地面積 |
|----------|--------|-------|-------|--------|----------------|
|          | 総数     | 田     | 畑     | 樹園地    |                |
| 昭和40年    | 58,843 | 9,270 | 9,690 | 39,883 | 59.0           |
| 45       | 62,754 | 7,647 | 7,766 | 47,341 | 66.5           |
| 50       | 51,914 | 3,689 | 3,006 | 45,219 | 69.0           |
| 55       | 50,888 | 2,808 | 3,147 | 44,933 | 66.4           |
| 60       | 46,375 | 2,572 | 4,530 | 39,723 | 63.9           |

資料：農業センサス

③経営規模別農家数

単位：戸

| 区分<br>年次 | 農家総数 | 5a未満   | 5a～ | 10～ | 30a～ | 50a～ | 70  |
|----------|------|--------|-----|-----|------|------|-----|
|          |      | (例外規定) | 9a  | 29a | 49a  | 69a  | a以上 |
| 昭和40年    | 998  | 548    | 259 | 189 | 2    | 0    | 0   |
| 45       | 944  | 463    | 245 | 231 | 5    | 0    | 0   |
| 50       | 752  | 381    | 171 | 189 | 9    | 2    | 0   |
| 55       | 766  | 397    | 179 | 181 | 7    | 1    | 0   |
| 60       | 726  | 390    | 165 | 162 | 9    | 0    | 0   |

資料：農業センサス

(4)農畜産物年次別取扱高（東伊豆町管内）（伊豆東農協）（単位千円）

| 品名<br>年度 | 夏みかん                     | 雑柑類                         | 温州      | キウイ    | 絹さや    | 苺      |
|----------|--------------------------|-----------------------------|---------|--------|--------|--------|
| 昭和41     | 88,419                   |                             | 180,620 |        | 44,530 |        |
| 42       | 77,984                   |                             | 221,156 |        | 62,190 |        |
| 43       | 124,939                  |                             | 191,324 |        | 57,630 |        |
| 44       | 70,083                   |                             | 296,887 |        | 56,878 |        |
| 45       | 152,916                  |                             | 279,080 |        | 62,970 |        |
| 46       | 145,299                  |                             | 241,216 |        | 44,124 |        |
| 47       | 127,885                  | 24,761                      | 238,673 |        | 35,923 |        |
| 48       | 94,388                   | 33,756                      | 183,554 |        | 37,708 |        |
| 49       | 83,365                   | 35,784                      | 207,664 |        | 33,508 |        |
| 50       | 73,548                   | 59,177                      | 180,680 |        | 41,970 |        |
| 51       | 58,624                   | 74,200                      | 209,202 |        | 42,625 | 56,520 |
| 52       | 33,932                   | 91,197                      | 164,014 |        | 71,500 | 68,262 |
| 53       | 107,087                  | 38,800                      | 213,431 |        | 55,521 | 76,244 |
| 54       | 114,476                  | 46,854                      | 163,288 |        | 37,503 | 59,729 |
| 55       | 80,115                   | 49,839                      | 95,505  |        | 38,485 | 63,165 |
| 56       | 85,470                   | 53,759                      | 155,877 | 3,916  | 47,604 | 67,824 |
| 57       | 100,129                  | 68,223                      | 145,904 | 12,849 | 25,305 | 65,463 |
| 58       | 113,371                  | 52,540                      | 134,068 | 3,505  | 27,710 | 54,900 |
| 59       | 35,531                   | 53,087                      | 136,709 | 48,372 | 33,900 | 62,660 |
| 60       | 有キ 7,560<br>184,323      | ニューサマー<br>41,144<br>79,514  | 192,513 | 20,447 | 72,845 | 86,847 |
| 61       | 有キ 7,946<br>194,563      | ニューサマー<br>32,571<br>108,501 | 166,864 | 38,073 | 52,242 | 75,079 |
| 62       | 有機農法<br>6,486<br>141,013 | ニューサマー<br>37,176<br>108,400 | 153,000 | 27,368 | 51,881 | 77,748 |

| 年度 \ 品名 | 花卉    | トマト・メロンその他 | 肥育牛     | 肉豚      | 椎茸     | なめこ     |
|---------|-------|------------|---------|---------|--------|---------|
| 昭和41    |       | 193        |         | 4,200   |        |         |
| 42      |       | 2,344      | 1,404   | 7,529   |        |         |
| 43      |       | 9,216      | 115,544 | 19,942  |        |         |
| 44      | 1,881 | 15,124     | 110,773 | 32,579  |        |         |
| 45      | 147   | 13,349     | 78,007  | 35,018  | 18,187 |         |
| 46      | 3333  | 22,283     | 39,238  | 62,531  | 18,820 |         |
| 47      | 1,209 | 424        | 26,428  | 72,108  | 17,600 |         |
| 48      | 1,228 | 555        | 43,734  | 62,946  | 13,977 |         |
| 49      | 2,121 | 651        | 23,009  | 53,096  | 33,509 |         |
| 50      | 2,046 | 5,208      | 26,511  | 57,806  | 32,910 |         |
| 51      | 3,574 | 2,920      | 43,884  | 68,765  | 19,873 |         |
| 52      | 7,057 | 2,052      | 58,083  | 68,266  | 29,728 |         |
| 53      | 2,834 | 6,022      | 57,651  | 61,910  | 30,681 |         |
| 54      | 3,017 | 5,115      | 110,527 | 56,510  | 28,444 |         |
| 55      | 4,163 | 3,427      | 97,030  | 79,112  | 16,993 |         |
| 56      | 3,616 | 9,659      | 131,003 | 91,851  | 26,656 |         |
| 57      | 4,727 | 49,691     | 120,607 | 97,061  | 30,382 |         |
| 58      | 3,400 | 60,589     | 135,467 | 92,894  | 51,537 |         |
| 59      | 2,010 | 66,622     | 97,062  | 112,770 | 45,282 |         |
| 60      | 1,575 | 21,803     | 98,203  | 132,431 | 37,941 | 106,170 |
| 61      | 787   | 23,033     | 111,583 | 139,767 | 25,769 | 100,794 |
| 62      | 1,329 | 31,542     | 119,130 | 129,550 | 25,248 | 124,770 |

昭和58年度より新農業構造改善事業及び地区林業構造改善事業（別紙参照）を実施し現在に至っている。

#### 5. 旧城東村農村開発計画

工業資源に恵まれず加えて過剰人口問題に悩む我が国に於て土地を高度に利用し、土地からの生産を増加することが人類の幸福を増進する上に最も肝要なことのひとつである。

経済的に恵まれない農村の経済を向上安定させることは、土地からの生産を増加されるためにはもとよりのこと、我が国経済の自立に寄与する一大要素と云える。

戦後に行われた農地改革、新民法下の均分相続等、時宜を得た政策として喜ばしいことであるが、農業経営上から見れば限りある農用地を細分化し、経営規模を著しく均等的に零細化したのである。

今後の農業経営は特産地形態の激しい競争が中心になると思われる。

又柑橘についても、品種統一、共同管理、共同出荷等改善し進む必要があると思われる。

以上の問題を解決するため、農村開発計画を樹立し実施することになった。

#### 1. 計画の概要

##### ①開拓

可耕未墾地130町歩を第1次的に開墾し、樹園地90町歩を造成し適正規模農家を

を育成する。

又地区内幹線道路を大川部落より山越し、奈良本部落樋の口農道と連絡せしめ開墾に便ならしめると共に、近傍耕地の生産も増強せしめる。

##### ②土地改良

用排水の改良整備によって水田の生産力を大幅に増強すると共に、農道の設置に村の全力を投入し、これによって得られる営農上社会生活上の利益を図る。

##### ③土地保全

未墾地開発に伴う土壌侵蝕防止については地区開発計画樹立の際に有る程度盛り込むが階段工設置等は機械力利用による集団開墾によってその効果を倍加したい。

##### ④農業経営の改善

A、農業規模と形態の確立…開拓による増反と家畜導入による。

B、技術指導の強化…地元柑橘試験場と連絡を取る外農協、役場等に技術員を置く。

C、柑橘の品種統一…在来のものの改植の外、新植のものは特に統一すべく村、農協等が努力する。

D、柑橘の共同管理、共同出荷…柑橘農協の確立と指導組織の強化

以上より

かんがい排水、排水路、農道等必要最小限の計画の実現により耕作の合理化と収量の増大を図るため次の計画を樹てた。

(I)安定農家造成計画

1. 農用地整備計画

(1)開拓地(干拓地)土地配分計画

(I)入植、増反用地

| 地区名  | 増反用地   |        |         | 関係部落名           | 入植用地   |        |         | 摘要        |
|------|--------|--------|---------|-----------------|--------|--------|---------|-----------|
|      | 耕地     | 附帯地    | 計       |                 | 耕地     | 附帯地    | 計       |           |
| 城東   | 47.3町歩 | 10.7町歩 | 58.0町歩  | 大川<br>奈良本       | 38.0町歩 | 37.5町歩 | 75.5町歩  | 地区開拓計画による |
| 城東第二 | 30.0町歩 | 15.0町歩 | 45.0町歩  | 奈良本<br>片瀬<br>白田 | 20.0町歩 | 24.0町歩 | 44.0町歩  | 推定        |
| 計    | 77.3町歩 | 25.7町歩 | 103.0町歩 | -               | 58.0町歩 | 61.5町歩 | 119.5町歩 | -         |

(II)増反計画(城東地区)

| 現在組員<br>面積広さ別 | 増反面積 |      |      |      |       | 増反農家 | 増反面積  | 摘要 |
|---------------|------|------|------|------|-------|------|-------|----|
|               | 1反未満 | 1~2反 | 2~3反 | 3~5反 | 5~10反 |      |       |    |
| 5反未満          | -    | -    | 110戸 | 250戸 | 22戸   | 382戸 | 720町  |    |
| 5反~1町         | -    | 30戸  | 170戸 | 35戸  | -     | 235戸 | 380町  |    |
| 1町~1.5町       | -    | -    | -    | -    | -     | -    | -     |    |
| 1.5町~2.0町     | -    | -    | -    | -    | -     | -    | -     |    |
| 2町以上          | -    | -    | -    | -    | -     | -    | -     |    |
| 計             | -    | 30戸  | 280戸 | 285戸 | 22戸   | 617戸 | 1100町 |    |

(III)入植計画

| 地区名    | 一戸当り配分面積 |      |      | 入植<br>戸数 | 地元地元 |       | 入植住宅及分教場施設 |       | 電気施設  |         | 開墾作<br>業費 |
|--------|----------|------|------|----------|------|-------|------------|-------|-------|---------|-----------|
|        | 耕地       | 附帯地  | 計    |          | 外の別  | 補助    | 受益者負担      | 補助    | 受益者負担 |         |           |
| 城東地区   | 1.5町     | 1.5町 | 3.0町 | 25戸      | 地元   | 900千円 | 1,100千円    | 800千円 | 400千円 | 7,000千円 |           |
| 城東第二地区 | -        | -    | -    | -        | -    | -     | -          | -     | -     | -       |           |

| 類型      | 専業<br>農家個数 | 乳牛  | 役牛   | 馬   | 豚   | 緬山羊  | 鶏     |
|---------|------------|-----|------|-----|-----|------|-------|
| 1町~1.5町 | 49         | 12  | 37   | 頭   | 40  | 頭    | 490   |
| 1.5町以上  | 10         |     |      | 10  |     |      | 100   |
| 計       | 280        | 164 | 134  | 10  | 234 | -    | 6,500 |
| 現在頭数    |            | 48  | 187  | 18  | 234 | 44   | 4,915 |
| 差引増減    |            | 116 | -△53 | -△8 | -   | -△44 | 1,585 |

(II)家畜導入計画

| 種別 | 区分<br>頭羽数 | 所要資金  |       |       | 事業担<br>当機関 | 摘要 |
|----|-----------|-------|-------|-------|------------|----|
|    |           | 借入金   | 自己資金  | 計     |            |    |
| 乳牛 | 116       | 3,480 | 3,480 | 6,960 | 農協         |    |
| 鶏  | 1,585     | -     | 269   | 269   | 個人         |    |
| 計  | -         | 3,480 | 3,749 | 7,229 |            |    |

(III)飼料計画(増加家畜分)

| 飼料名 | 乳牛      |      | 豚  |      | 鶏      |      | 計       |      | 備考 |
|-----|---------|------|----|------|--------|------|---------|------|----|
|     | 自給      | 総量   | 自給 | 総量   | 自給     | 総量   | 自給      | 総量   |    |
|     | 総量      | 栽培面積 | 総量 | 栽培面積 | 総量     | 栽培面積 | 総量      | 栽培面積 |    |
| 稲藁  | 27,395  | 10   |    |      |        |      | 27,953  | 10   |    |
| 青草  | 320,160 | 11   |    |      |        |      | 320,160 | 11   |    |
| 乾草  | 30,070  | 40   |    |      |        |      | 30,070  | 40   |    |
| 米糠  | 6,298   | -    |    |      |        |      | 6,298   | -    |    |
| 麦類  | 1,948   | 20   |    |      |        |      | 1,948   | 20   |    |
| 藎類  | 35,011  | 9    |    |      |        |      | 35,011  | -    |    |
| 雑穀  | -       | -    |    |      | 13,670 | -    | -       | -    |    |

(IV)家畜一頭当り購入自給飼料供給基準

| 飼料名<br>家畜名 | 濃厚飼料 |      |    | 粗飼料 |         |       | 備考 |
|------------|------|------|----|-----|---------|-------|----|
|            | 購入   | 自給   | 合計 | 購入  | 自給      | 計     |    |
| 乳牛         | 70   | 71   |    | —   | 1,292   | 1,292 |    |
| 鶏          | 2.8  | 8.6  |    |     | 3.5     |       |    |
| 計          | 72.8 | 79.6 |    |     | 1,295.5 | 1,292 |    |

(V)畜産物（増加家畜分）

| 種別 | 年間数量                  | 経営内部仕向          |       | 家計消費向               | 販売向                   | 備考          |
|----|-----------------------|-----------------|-------|---------------------|-----------------------|-------------|
|    |                       | 産仔飼育            | 加工原料用 |                     |                       |             |
| 牛乳 | 324,800 <sup>kg</sup> |                 | —     | 700 <sup>kg</sup>   | 324,100 <sup>kg</sup> | 1頭年間2,800kg |
| 仔畜 | 100 <sup>頭</sup>      | 50 <sup>頭</sup> | —     |                     | 50 <sup>頭</sup>       |             |
| 鶏卵 | 12,000 <sup>kg</sup>  |                 |       | 4,000 <sup>kg</sup> | 8,000 <sup>kg</sup>   | 1羽年間7.5kg   |

(VI) 家畜飼育計画の概要

①大家畜

耕地5反未満の専業農は1戸2頭、5反～1町＝1頭、1町～1町5反＝乳牛又は役牛1頭とし、大経営面積所有の農家は馬で労力を補い、全農家大家畜1頭以上を目標とした。

Ⅱ 中小家畜

柑橘類、蔬菜類導入による労力配分を勘案の上、豚は概ね現状維持とし、鶏を自家の蛋白補給源とし若干飼育するよう計画した。

資金計画

1. 支出

| 種別   | 総事業費 | 補助金    |        |       |        | 受益者負担 |        |        |
|------|------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|
|      |      | 国の補助   | 県の補助   | 町村の補助 | 計      | 自己資金  | 借入     | 計      |
| 開拓計画 | 開墾   | 37,000 | 16,649 | —     | 16,649 | 5,351 | 15,000 | 20,351 |
|      | 道路   | 26,000 | 23,000 | —     | 23,000 | 1,000 | 2,000  | 3,000  |
|      | 計    | 63,000 | 39,649 |       | 39,649 | 6,351 | 17,000 | 23,351 |

2 農業計画

(1)耕種改善計画

(I)改善事項

| 改善事項   | 事業量              | 事業費                  | 全左負担区分 |                      | 他との関連事業 | 事業担当機関 | 増産量概算               |
|--------|------------------|----------------------|--------|----------------------|---------|--------|---------------------|
|        |                  |                      | 補助金    | 受益者負担                |         |        |                     |
| 柑橘新植   | 170 <sup>町</sup> | 27,200 <sup>千円</sup> |        | 27,200 <sup>千円</sup> | 開拓事業    | 農協協連   | 1,170 <sup>千羽</sup> |
| 〃改植    | 40               | 2,400                |        | 2,400                | —       | 〃      | —                   |
| 〃病虫害防除 | 130              | 7,150                |        | 7,150                | —       | 〃      | 130                 |
| 〃施肥改善  | 130              | 18,000               |        | 18,000               | —       | 〃      | 26                  |
| 〃間伐    | 30               | 960                  |        | 960                  | —       | 〃      | —                   |
| 蔬菜類導入  | 20               | 2,000                |        | 2,000                | —       | 農協     | 100                 |
| 合計     | 520              | 57,710               |        | 57,710               |         |        |                     |

(Ⅱ) 改善計画の概要

① 柑橘

本村の主要作物柑橘類は適地が広く分布しているので現在130町を300町に造園し併せて雑柑類の改植、間伐及び施肥基準の設定、病虫害防除の徹底した指導を行なう。

尚造園上の注意事項は次の通り

1. 深耕、植穴の励行（大穴を掘り有機物を埋込む）
2. 防風垣の設置
3. 品種の統一〔温州（宮川、杉山、伴野）夏柑（普通夏柑、伊予、八朔）〕
4. 貯水槽の設置
5. 密植防止

② 蔬菜

零細農家にして増地不可能な農家は温泉消費を目途に蔬菜を導入し換金作とする。

(2)家畜飼育計画

(I)飼育計画数

| 類型    | 専業農家戸数          | 乳牛              | 役牛 | 馬 | 豚   | 緬山羊 | 鶏                  |
|-------|-----------------|-----------------|----|---|-----|-----|--------------------|
| 5反未満  | 27 <sup>戸</sup> | 54 <sup>頭</sup> |    |   |     |     | 3,970 <sup>羽</sup> |
| 5反～1町 | 194             | 97              | 97 |   | 194 |     | 1,940              |

| 種 別    | 総事業費    | 補 助 金  |       |       |        | 受 益 者 負 担 |        |         |
|--------|---------|--------|-------|-------|--------|-----------|--------|---------|
|        |         | 国の補助   | 県の補助  | 町村の補助 | 計      | 自己資金      | 借 入    | 計       |
|        | 千円      | 千円     | 千円    | 千円    | 千円     | 千円        | 千円     | 千円      |
| 土地改良計画 |         |        |       |       |        |           |        |         |
| 灌 排    | 5,750   | —      | 1,725 | —     | 1,725  | —         | 4,025  | 4,025   |
| 農 道    | 16,600  | 4,200  | —     | —     | 4,200  | 2,400     | 10,000 | 12,400  |
| 計      | 22,350  | 4,200  | 1,725 | —     | 5,925  | 2,400     | 14,025 | 16,425  |
| 牧野改良   | 2,100   | 700    | 700   | —     | 1,400  | 700       | —      | 700     |
| 農業     |         |        |       |       |        |           |        |         |
| 柑橋新改植  | 29,600  | —      | —     | —     | —      | 4,600     | 25,000 | 29,600  |
| 耕種改善   | 28,110  | —      | —     | —     | —      | 3,110     | 25,000 | 28,110  |
| 家畜導入   | 7,229   | —      | —     | —     | —      | 3,749     | 3,480  | 7,229   |
| 計      | 64,939  | —      | —     | —     | —      | 11,459    | 53,480 | 64,939  |
| 合 計    | 152,389 | 44,549 | 2,425 | —     | 46,974 | 20,910    | 84,505 | 105,415 |

## 2. 便 益

|       | 増加粗収益       | 増加所得       | 増 加 所 得 中  |            |
|-------|-------------|------------|------------|------------|
|       |             |            | 償還振向可能額    | 家系振向可能額    |
| 既存農家  | 121,582,470 | 77,569,616 | 11,505,000 | 66,064,616 |
| 開拓農家  | 9,343,450   | 5,961,121  | 325,000    | 5,636,121  |
| 農家一戸当 |             |            |            |            |
| 計     | 130,925,920 | 83,530,737 | 11,830,000 | 71,700,737 |
| 既存農家  | 187,050     | 119,373    | 17,700     | 101,637    |
| 開拓農家  | 373,738     | 238,445    | 13,000     | 225,445    |

## 3. 効 果

|              | 総 額        | 農家一戸当  |
|--------------|------------|--------|
| 借入金年償還必要額(a) | 11,310,994 | 16,757 |
| 全償還可能額(b)    | 11,830,000 | 17,526 |
| 全 比 %        | 1.05       | 1.05   |

|                         | 農 家 一 戸 額 |
|-------------------------|-----------|
| 現状の農家平均家計費              | 286,000円  |
| 計画後の安定農家平均家計費           | 385,000   |
| 差 引 増 加 額 (a)           | 99,000    |
| 増加所得中家計費振向可能額既存農家一戸当(b) | 101,637   |
| 全 比 %                   | 1.03      |

## 経費の概算

| 事業種別   | 経費区分 | 昭 和 33 年 度 |           |     |         |           | 昭 和 34 年 度 |           |            |   |         |           |            |
|--------|------|------------|-----------|-----|---------|-----------|------------|-----------|------------|---|---------|-----------|------------|
|        |      | 受 益 者 負 担  |           | 補 助 |         |           | 受 益 者 負 担  |           | 補 助        |   |         | 計         |            |
|        |      | 自 己 資 金    | 借 入       | 町 村 | 県       | 国         | 自 己 資 金    | 借 入       | 町 村        | 県 | 国       |           |            |
| 開 拓    |      | 618,750    | —         | —   | —       | 506,250   | 1,125,000  | 750,000   | 2,000,000  | — | —       | 2,250,000 | 5,000,000  |
| 道 路    |      | —          | —         | —   | —       | —         | —          | —         | —          | — | —       | 4,000,000 | 4,000,000  |
| 計      |      | 618,750    | —         | —   | —       | 506,250   | 1,125,000  | 750,000   | 2,000,000  | — | —       | 6,250,000 | 9,000,000  |
| 土地改良計画 |      |            |           |     |         |           |            |           |            |   |         |           |            |
| 灌 排    |      | —          | 900,000   | —   | 425,000 | —         | 1,325,000  | —         | 1,425,000  | — | 550,000 | —         | 19,975,000 |
| 農 道    |      | 1,000,000  | 1,900,000 | —   | —       | 1,000,000 | 3,900,000  | 700,000   | 2,600,000  | — | —       | 1,200,000 | 4,500,000  |
| 計      |      | 1,000,000  | 2,800,000 | —   | 425,000 | 1,000,000 | 5,225,000  | 700,000   | 4,025,000  | — | 550,000 | 1,200,000 | 6,475,000  |
| 牧野改良計画 |      | 150,000    | —         | —   | 150,000 | 150,000   | 450,000    | 250,000   | —          | — | 250,000 | 250,000   | 750,000    |
| 農業     |      |            |           |     |         |           |            |           |            |   |         |           |            |
| 柑橋新改植  |      | 300,000    | —         | —   | —       | —         | 300,000    | 320,000   | 1,000,000  | — | —       | —         | 1,320,000  |
| 耕種改善   |      | 310,000    | 7,000,000 | —   | —       | —         | 7,310,000  | 1,470,000 | 6,500,000  | — | —       | —         | 7,970,000  |
| 家畜導入   |      | 200,000    | 100,000   | —   | —       | —         | 300,000    | 1,000,000 | 1,069,000  | — | —       | —         | 2,069,000  |
| 計      |      | 810,000    | 7,100,000 | —   | —       | —         | 7,910,000  | 2,790,000 | 8,569,000  | — | —       | —         | 11,359,000 |
| 合 計    |      | 2,578,750  | 9,900,000 | —   | 575,000 | 1,656,250 | 14,710,000 | 4,490,000 | 14,594,000 | — | 800,000 | 7,700,000 | 27,584,000 |



開拓道路については、昭和35年～昭和39年にかけて新設し総事業費35,417,000円で完成、開拓地及び既耕地の利用度を高め生産力の増強を計り現在に至っている。

## 6. しんせぎ（新堰）

今では、すっかり住宅地へと変わろうとしている、奈良本の下小田原地区一帯は、町村合併施行の頃、秋になると、黄金色の稲穂が風にゆれ、無数の赤トンボが、とんでいた。

小田原田と呼ばれていたこのあたりには、元来、川はなく、水田耕作をするには、外から水を持って来るより方法がなかった。その為の用水路は2つある。と言うより、あった、と言うほうが正確かも知れない。

1つは小田原川であり、下流は片瀬白田へと通じる樋ノ口の川から、水を取り入れ、三度沢、小池、小田原川、小橋、を通過して、下小田原の田んぼへと注いでいた。

もう一つは、<sup>しんせぎ</sup>新家の前の川から水を取り、やがて、今の熱川書店の近くから、直線距離にして170mくらいのトンネルを掘り、小田原の田へと水を供給していた。昭和初期の県道（現町道）工事が行われる以前は、今の役場熱川支所付近は、小高い岡になっていたはずだから、どうしても水を小田原に持って行く、と言うのなら、トンネルを掘るよりの他、方法がなかった。

かって、奈良本の子供たちは、探検と称して、あるいはコウモリを求めて、この穴に挑んだ。トンネルの入口付近は、子供なら立って歩けるほどだが、やがて、かがむようにして、ついには、1列縦隊のほふく前進の難行を強いられることになる。穴は、出口付近で急に、ポッカリと開ける。実は這うようになるころには、出口に明りが見えてきているわけだが、クワぐらいしかなかった時代、どうして、これだけの穴を掘ったのだらうと、外に出て大きく背のびをしてみると、いい知れない感動を覚えたものだった。眼下には、小田原田が広がっていた。

このトンネルをふくめた用水路は、昔から、シンセギと呼ばれている。奈良本では、田に引く水路のことを、セギと言う。だから、シンセギと言うのは、新堰という字をあてるものと思われる。

小田原川より後に作られたセギだから、新セギと言う訳だ。すでに江戸時代の終りころ、百姓たちは、新セギ、と言うから新しいづら、と笑い合ったと言う。一体、いつ、誰が、どうして、掘削したのだらうか？

ところで、小田原という名称だが、下小田原にあった旧家に、「東の都、小田原」にちなみ、ここを小田原と名づける、と書き記したものがあったと言う。天正18年（1590年）、小田原北条氏が、豊臣秀吉によって滅ぼされる以前の約100年間

というもの、伊豆は小田原北条氏の支配下であり、しかもその発祥の地でさえあった。北条氏は、関東一帯がその統治下にあったとき、新田の開発を勧め、また数々の大治水工事をを行い、その名を残している。もしかしたら、小田原川を通じて、下小田原に水田を可能にしたのは、北条氏の時代であったかも知れない。

かって、水田の水の優先順位の問題は、深刻かつ厳格であった。奈良本でもその例にもれず、新田になるほど、水はあとまわしにされた。<sup>おおた</sup>大田への水は、赤川方面からあるにもかかわらず、三度沢の下、水落としと呼ばれたところからも流され、これは小田原川へ通じる水よりも、優先権がある。つまり、大田の方が、小田原よりも、先輩であった。

だから、あるいは、自らだけの用水路としてのシンセギを作り、大田の田んぼよりも、さらに広い地域の水田を下小田原に可能にしたのが、小田原北条氏の時代であったのかも知れない。そこには、北条氏の技術者たちがいて、村の人たちと労苦を共にしていたのかも知れない。やがて新しい支配者徳川家康の時代になっても、村の人たちは、そこを小田原田と名づけ、新セギは毎年初夏になると、水をとうとうと流しつづけた。今ではその真相を知っているのは、シンセギだけになっしまった。いくつもの立ち並んだ家なみと、自動車の騒音の中で、その存

在さえ忘れられかけている。

## 7. 伊豆急行鉄道駅との取合道

伊豆に鉄道をという住民の願いが昭和36年12月9日の開通によりなし遂げられた。

その内伊豆大川駅と伊豆稲取駅と住宅地を結ぶ取合道の要望が高くなり、利用者の不便を解消するため、静岡県、伊豆急行線、町の三者の負担（各1/3づつ）により昭和37年～昭和38年の2ヶ年にわたり民有地の道路敷協力により進められた。

### ①大川停車場線について

昭和37年度に用地買収後、面積235.02坪、金額にして3,172,770円、他に樹木等の補償費351,600円、計3,524,370円で進められた。

翌昭和38年度は道路改良費延長117mが昭和38年12月1日～昭和39年3月25日迄<sup>株</sup>竹内組により工事がおこなわれた。

2ヶ年の事業費は8,474,370円である。

### ②稲取停車場線について

昭和37年度に用地買収費、面積671.22坪、金額にして10,450,240円、他に樹木等の補償費3,265,390円、道路改良費延長258.0m工事費5,260,000円が昭和38年3月8日～3月30日請負人梅原工務店により工事が行われた。

翌昭和38年度は家屋の補償費45.3坪3,000,000円が執行された。

2ヶ年の事業費は21,975,630円である。

### ③大川停車場線、稲取停車場線の2ヶ年

の総事業費は30,450,000円であり静岡県  
の補助金は10,150,000円、伊豆急行株の  
負担金、東伊豆町の負担金はそれぞれ同  
額の10,150,000円で完成をいたし、現在  
住民および観光客に利用されている。

## 第8節 社会・福祉

### 1. 水道

東伊豆町の水道の歴史は、主として稲  
取の水道の歴史として始まる。

狭い土地に人家の密集した稲取は、志  
津間川より分水した、堀割川（下流に  
なつて利島川と呼ばれる）の水を、主と  
して生活用水として使用した。今となつ  
ては、有つた場所も定かでないが、井戸  
も少なかつたと思われる。旧役場傍に  
あつたお陣屋の水を、東町の方から汲み  
に来て桶で担つて帰つたと云う話が伝え  
られている。早朝、まだ汚れないうちに  
利島川の水を汲んで飲料水とした事も  
あつて、伝染病が蔓延する原因となつた  
為、水道施設を考えたものと思われる。

明治23年、林の沢に水源を作り、木管  
1440mにて、通水を始めたのが、稲取水  
道の始まりで、此れは静岡県下では最初、  
日本全国でも、横浜に次ぐ2番目である  
と云う。

本格的な水道としては、明治42年鑄鉄管  
に取り替え、向井、新宿を通り、東町、  
連行寺前に至る迄の通水と、それに共用

栓14基を設置して水道らしき形態が整つ  
た。

(1) 東伊豆町水道のあゆみ  
明治23年秋、伝染病大流行  
水源 林の沢 組立木管を八百間布設  
当時の村 一般会計2,2000円  
工事費 1,200 円  
村民の飲料水確保に対する渴望

明治42年11月  
(全国では15番目に当たる。)  
水源 林の沢に集水池、配水池を設置  
向井、新宿等を経由し東町連行寺門前  
の区間——鑄鉄管布設替 八吋管、六  
吋管、四吋管共用栓（鑄鉄管蛇口）14  
基設置

明治43年11月～明治44年1月  
西町、東町方面増設 共用栓4基  
大正3年 新宿、西町、東町方面に各支  
線延長

共用栓6基設置  
大正6年～8年 東町恵比須神社境内等  
増設

共用栓10基設置  
以上の様増設、布設替しても高低差が著  
しく高い箇所への給水の改良にせまられ  
る。

拡張改良工事（第1次）  
大正14年6月 通水  
水源 入谷横ヶ坂 湧水  
配水管 横ヶ坂～山神社 四吋管  
山神社～愛宕神社 三吋管

愛宕神社～小学校裏貯水池三吋管  
その他配水管布設を設置

共用栓 入谷7基、水下11基、清水6基、  
立野5基 以上29基設置  
昭和4年2月25日 稲取町水道部ができ  
る。

昭和4年3月21日付 静岡県指令衛第  
791号の2にて「稲取上水道」認可を  
得る。  
昭和5年 稲取黒根に水源を作り、清水  
下町支線完成と同時に立野方面に通水。  
以上にて入谷本線は小学校裏貯水池を  
終点とする。

拡張改良工事（第2次）  
昭和5年7月12日 通水  
水源 黒根 湧水  
計画給水人口 8,200人  
計画給水量 1日1人80ℓ、  
656m<sup>3</sup>/日  
集水池 1池 7.5m<sup>3</sup>  
配水池 1池 270m<sup>3</sup>  
配水管 鑄鉄管  
75～150m/m 延長1,550m

昭和24年4月 入谷 横ヶ坂水源地上方  
山林内の湧水を集水井を設置し、横ヶ  
坂水源へ  
昭和27年 拡張改良工事を実施し、町内  
の各家庭全般給水工事を行い、共用栓  
の姿はなくなった。

昭和33年 水需要の増加に伴い、磯脇に

水源を求める。

1日1人300ℓ、2,550m<sup>3</sup>/日  
以上の工事を完了し、稲取町としての  
最終の水道施設拡張改良工事である。

旧城東村の水道

白田簡易水道  
昭和27年11月 竣工  
計画給水人口1,000人  
計画給水量

1日1人150ℓ 150m<sup>3</sup>/日

湯ヶ岡簡易水道

昭和28年7月 竣工  
計画給水人口 850人  
計画給水量

1日1人150ℓ 127m<sup>3</sup>/日

奈良本簡易水道

昭和30年竣工  
計画給水人口 4,000人  
計画給水量

1日1人150ℓ 600m<sup>3</sup>/日

昭和34年5月 稲取町と城東村が合併  
し、東伊豆町となる。

昭和36年12月 伊豆急行電鉄が開通

昭和42年4月 東伊豆有料道路開通  
一躍観光の町として脚光を浴びるとと  
もに、これに伴い水需要も増加し、水  
不足が深刻になる。

昭和38年12月 変更認可（東伊豆町上水  
道拡張工事厚生省認可）

昭和41年4月 東伊豆町第3次拡張改良

工事着工

基本計画（白田浄水場）

計画給水人口 18,000人

1日最大給水量 20,000m<sup>3</sup>/日

1日1人最大給水量 1,100ℓ

1日最大取水量 22,000m<sup>3</sup>/日

取水箇所 白田川

昭和43年3月 東伊豆町上水道白田川浄



水場完成

昭和43年8月 稲取地区通水（上水道拡張第1次工事竣工により稲取地区全面通水開始）

昭和45年10月 東伊豆町上水道拡張工事完成

昭和45年11月 熱川地区通水竣工



大川簡易水道

昭和37年 認可

計画給水人口 1,500人

計画給水量 250ℓ

導水管、送水管、配水管等すべて石綿管布設

分譲地等の開発進み、水不足深刻になる。

昭和49年12月 変更認可

昭和50年 大川浄水場着工

計画給水人口 1,500人

計画給水量 1日1人

1,500ℓ 2,250m<sup>3</sup>/日

水源 大深沢川 送水管等ダクタイル鋳鉄管布設

(2) 東伊豆町水道第3次拡張、事業概要

①基本計画

計画給水人口 18,000人

1日最大給水量 20,000m<sup>3</sup>/D=0.23m<sup>3</sup>/S

1人1日最大給水量 1,100ℓ

計画取水量 22,000m<sup>3</sup>/D=0.255m<sup>3</sup>/S

計画浄水量 20,000m<sup>3</sup>/D

認可年月日 昭和38年12月28日

②施設の概要

取水施設

取水埋管

φ800mm有孔鉄筋コンクリート管延長32m

取水井 内径4.0m 深9m RC造り1井

取水ポンプ φ250mm75KW 3台  
内ディーゼルエンジン

ン1台併用

取水ポンプ室 RC造り延坪78m<sup>2</sup> 1棟

浄水施設

薬品沈でん池 RC造り

A着水井

B量水堰設置

(機械式ウェアームーター)

C薬品混和槽

D急速攪拌池 容量18.7m<sup>3</sup>

Eフロック形成池 257m<sup>3</sup> 2池

(1池につきフロッキュレータ4基)

F沈殿池容量1511m<sup>3</sup> 2池

(滯留時間—計画水量の4時間分)

浄水本館

RC造り地上3階(地下浄水池)

1450m<sup>2</sup>—1棟

地下 浄水池 1200m<sup>3</sup>

1階 機械室、発電機室、薬注室、管廊、

塩素滅菌室

2階 電器室、監理室、操作室、宿直室、事務室

3階 水質試験室、会議室、予備室

急速ろ過設備 1池当たりろ過面積  
22.1m<sup>2</sup>—8面

送配水施設

管口径別延長

φ500mmMC I P 500m(導水管)

φ600mm " 1,900m

φ450mm " 1,100m

φ400mm " 4,864m

φ350mm " 1,534m

φ300mm " 3,927m

φ250mm " 4,330m

φ200mm " 351m

φ150mm " 3,586m

φ125SP 696m

φ100mmMC I P 2,814m

φ75mm " 335m

φ50mmVP 83m

計 26,019m

(地域別総延長)

稲取地区 (13,657m)

熱川地区 (11,462m)

主要配水、調整池

稲取黒根調整池 RC造り 400m<sup>3</sup> 1池

稲取取水池 " 800m<sup>3</sup> 1池

稲取高校地区配水池 " 350m<sup>3</sup> 1池

熱川地区配水池 PC造り 2,000m<sup>3</sup> 1池

奈良本地区配水池 RC造り 400m<sup>3</sup> 1池

その他調整池 " 110m<sup>3</sup> 2池

計 4,060m<sup>3</sup>

(3)水道の状況

| 年度 \ 区分 | 年間排水量               | 年間給水量             | 給水人口    |
|---------|---------------------|-------------------|---------|
| 昭和43年   | 1,276千 $\text{m}^3$ | 918千 $\text{m}^3$ | 9,689 人 |
| 44      | 1,651               | 1,171             | 10,073  |
| 45      | 2,305               | 1,624             | 12,714  |
| 46      | 3,725               | 2,635             | 14,281  |
| 47      | 3,837               | 2,933             | 15,232  |
| 48      | 4,407               | 3,350             | 15,410  |
| 49      | 4,584               | 3,466             | 15,638  |
| 50      | 4,806               | 3,764             | 15,588  |
| 51      | 5,231               | 3,800             | 15,688  |
| 52      | 5,177               | 3,768             | 15,566  |
| 53      | 5,538               | 3,829             | 15,652  |
| 54      | 5,750               | 4,050             | 15,576  |
| 55      | 5,211               | 3,694             | 15,519  |
| 56      | 5,309               | 3,757             | 15,436  |
| 57      | 5,122               | 3,669             | 16,126  |
| 58      | 4,690               | 3,615             | 16,047  |
| 59      | 4,888               | 3,819             | 15,990  |
| 60      | 4,945               | 3,930             | 15,839  |
| 61      | 4,944               | 3,949             | 15,879  |

資料：水道課

(注) 簡易水道含む。

| 年度 / 区分 | 1人1日排水量    | 1人1日給水量    | 1日平均給水量            |
|---------|------------|------------|--------------------|
| 昭和43年   | 361 $\ell$ | 260 $\ell$ | 3,496 $\text{m}^3$ |
| 44      | 449        | 318        | 4,523              |
| 45      | 497        | 350        | 6,315              |
| 46      | 715        | 506        | 10,205             |
| 47      | 600        | 528        | 10,512             |
| 48      | 783        | 596        | 12,074             |
| 49      | 803        | 607        | 12,559             |
| 50      | 845        | 662        | 13,167             |
| 51      | 913        | 664        | 14,332             |
| 52      | 911        | 663        | 14,184             |
| 53      | 969        | 670        | 15,173             |
| 54      | 1,011      | 712        | 15,753             |
| 55      | 920        | 652        | 14,277             |
| 56      | 942        | 667        | 14,545             |
| 57      | 870        | 623        | 14,033             |
| 58      | 802        | 617        | 12,866             |
| 59      | 838        | 654        | 13,392             |
| 60      | 855        | 680        | 13,548             |
| 61      | 853        | 681        | 13,545             |

以上の様に、東伊豆町の水道は発達して来たが、昭和20年以前の入谷水系水道は、水量が少なく、小学校に於ても、夏季は掃除用雑用水にも不足を来たし、学校中で1箇所水の出る、水道に列をなし、ようよう掃除を済ませる状態であり、町各家庭への引込は許可されず、朝起きた子供達は、歯ブラシを口に咥え、バケツを片手に、共用水道栓に通い、洗面がてら水を汲んで来るのを常とした。

現在、水道は拡張に次ぐ拡張に依り、使用出来る水道水は豊富になったが、昔林の沢や、黒根水源の様な湧水に頼っていた頃の水のうまさを思うと、なんとなく機械的と云うか化学的と云うか、飲料水の原点を離れた様な気がする。